

冊 28

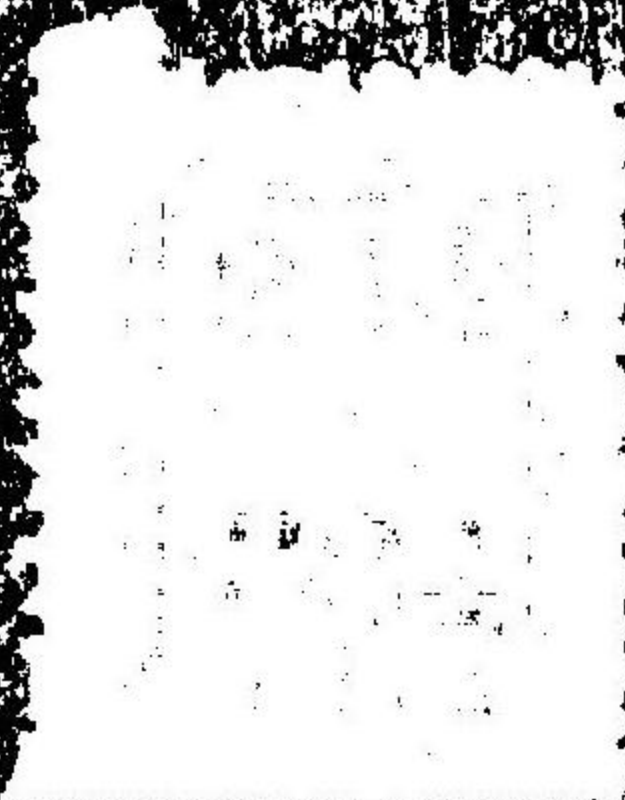
885

範 模

新

演

說



特28

885

範模

新

演

說

43. 9. 17

自叙

世説が文明の利器と、民権主張の具と、雄辯が如何、或は口と筆は共に双輪なりと、腕力は野蠻時代の利器、文明時代は實力素養か無上の財産なりと、算へ來れば煩鎖に堪へず、而かも是れ數年前盛んに唱へられ、蠶々として社會の各方面に喧しかりしものにて、當時の青年が争つて口角沫を飛ばし、徒らに黃吻を縱横に振はしめたる氣力は見る者をして徐ろに新興國の過渡時代をしのばしめ、一面愉快絶の情を禁ぜざらしめたるものなり。然るに漸く過渡時代を過ぎ、整頓時代に入りし現今一部専門の士は兎に角、一般には争つて是を喋々するを見受けざるに至り、徒らに舊世紀の陳套語として所謂演説口調が排斥せられつゝあるは一面氣力の衰弱を示すものと謂はざるべからず。

本書は社會各面に涉り、單に必要な諸例を示すに過ぎざるも亦勢帯に便なるの利あるを以て、蓋し有志諸子を裨益する事大ならんが、自ら巻頭に所感を叙すと云矣。

明治四十三年八月

著者誌す

新演説目次

目次

都市の自治に就て……………	一
帝國憲法につきて……………	一四
支那につきて……………	二八
清國の商業……………	五一
園藝趣味と其普及……………	六一
会社の監査制度に就て……………	七二
實業家の資質……………	八六
眞個の商賈と我武士道……………	九三

目 次

海軍の風紀に就て……………一一〇
大に發明家を獎勵せよ及び其の方法……………一一八
夏期休暇の利用及廢止説……………一二八
内債と外債との關係……………一三八
修身教育と司法過分の關係……………一四八
新時代の成功三信條……………一五八
英國人の長所五箇條……………一九四
屈伸……………二一一
信用を重んぜよ……………一九五

目 次

野球の弊……………二二二
眞と偽との説……………二二六
紳士の士につきて一言す……………二四〇
結婚……………二四五
失望落膽する勿れ……………二五九
現今の就業難と其適否……………二六三
慰勞會の席上に於て……………二七七
新聞協會の發會式席上に於て……………二八五
同上……………二九〇

目 次

同上……………二九五
同上……………三〇一
振蔵貝子招待會席上の乾盃辭……………三〇四
同上御答辭……………三〇七
日英同盟紀念祝賀會席上……………三一〇
同上……………三二二
清國の憲政大臣招待會挨拶……………三二五
同謝辭……………三二七
在大阪保險業者の觀迎會席上に於て……………三二九

目 次

生徒諸君に告ぐ……………三三三
渡米實業團留別招待會の挨拶……………三三六
政友會代議士總會に於て……………三三一
日本俱樂部に於て……………三三六
同上……………三三七
同上……………三四四
商業家懇談會の席上に於て……………三四八
同上……………三五一
同上……………三五四

六 目 次

入營兵送別會席上に於て……………三五六
同答辭……………三六〇
志願兵送別會の席上に於て……………三六四
同答辭……………三六八
歸郷兵慰勞會席上に於て……………三七〇
同答辭……………三七三
共進會閉會式の席上……………三七六
同答辭……………二七九
山林業者大會の席上……………三八二

七 次 目

土橋落成式の席上……………三八五
新道開通落成式の席上……………三八八
懇親會の席上……………三九一
友人結婚式の席上……………三九四
新年宴會の席上……………三九六
天長節祝賀會の席上……………三九九
忘年會の席上……………四〇五
友人の學校卒業祝宴會の席上……………四〇八
友人の昇給祝賀會の席上……………四一一

洋行者歸朝祝賀會の席上……………四二三

先師の追弔法會席上……………四一五

異域に病死したる友人の追弔法會席上……………四一七

不慮に斃れし軍人追悼法會の席上……………四二一

日次終

新演說

模範新演說

松浪猛彦著

◎都市の自治に就て

市民有志招待會に於ける大隈伯演說大意

憲政といひ自治といふ、其は決して法律によつて働くのではない、法律
 其ものは國民市民の上に臨み、國民市民は土臺になる、國民市民にして
 折角興へられたる權利を抛棄し義務を履行しなければ自暴自棄であつて

斯の如き國民市民は憲政自治の能力がないといふことになる。

所有ゆる生物は有機體であつて、國家も都市も亦有機體である、人間は

幾多の原素によつて組織され腦髓の命令通りに働く、例へば茲に澤山の

豆を籠に盛つたとして、豆には協同の力がないから依然個々別々だ、即

ち籠の中の豆は少しも有機的に働くとは出来ない、日本の大都市は果し

て人間の如く有機的に働いてゐるかといふに、大阪も東京も左うでない、

豆は豆同志の場合に於てバラバラだが、豆腐になると化學的作用により

結合する、如何なる大都市でも市町村制を有機的に働かすべき市民に結

合力がないなら、豆のバラバラになると同じく全く無意味なる人間の集ま

りたるに過ぎぬ、即ち豆腐にはならないのである

抑も大いなる利益は、單に自家の利益を圖るに非ずして結局他人を利す

るに在る、人間は社會的のもので單獨の生活を許さないから、協同的に

利益を圖つてこそ眞正の利益が生ずるのである利益は眼前に在らずして

永遠に且つ廣き所に存するから、人間には繼續的先見の明がなくては駄

目だ、斯の如くにして初めて自治は成立し憲政は發達し完美の域に達するるのである。

英雄豪傑が起れば一代を風靡するの大事業を成すことがある、例へば豊公の如く彼れが實に大明を震撼せしむる程の仕事をしたが、其死によつて事業は土崩瓦解バラ／＼となり纒かに大阪城を存するのみである、若し之が國民の上に築かれた事業だつたら、難攻不落の大阪城のみではない、聯絡した力が永久的に遺つたのである。

四

『富』といふとも左うで富其物は決して眼前自家の利を圖ることを意味してゐない、人間が單獨に籠の中の豆の如に個々別々に富を得たからとて何にもならぬ、大阪には富を有する人が澤山にあるが、其がバラ／＼になつてゐては豆の如く隣れ果敢ないものである、之を以て帝國の大都市と言ひ得るや、吾輩は唯之に答へて否といふ、百二十萬の市民と言はれ其が有機的に聯結を保たなければならぬ。

五

然るに大阪は東京の方よりも市民相互の利害關係が密接してゐる所から

東京に比しては結合力が稍羸いかと思ふ、東京の市民は言はい烏合の衆であるから、今此所に集まつてゐられるやうな目的の下に紳士諸君の會合するが稀である、で將來の大阪市政は發達するとが出來ると信する、吾輩は東京よりも却つて大阪に望みを屬する、市政紊亂につき其刷新を圖らんとして斯の如き集會の成立するを喜ぶのである、東京にも時々此種の會合が起らんとはないが、大阪の如く實業家諸君の叫破に由つて市政の弊害を除かんとする様などはない、這は大阪に於て初めて見る所で

ある、自治が發達しなければ憲政は完備の域に進まない、繰返して言ふ都市の有機的是市民の結合にあるのだ。今日の日本は過渡の時代に在る、そして專制の餘力が動もすれば自治に累をなすけれども是は惰力に過ぎない、市民が油斷してゐたからである、所謂油斷大敵要慎しなければならぬ 陛下の賜物たる市町村制、憲法によつて與へられたる選舉權、此選舉權は吾人の有する鍵である、市民が此鍵を守つて正當に使用して居れば市參事會と雖も市會と雖も決して我儘

の出来るものでない、半文錢も取るとは出来ぬ使ふとも出来ぬ、此寶の
 鍵を泥棒に渡しては大變だ、鍵は自然に紛失するものではない、其を大
 事に仕舞つて置かぬから盗まれる盗んだものが悪いのではない、失つた
 ものが宜くない、失つたものゝ罪を責めねばならぬ、失つたならまだし
 も渡したのだ、其渡す相手に事を欠いて泥棒に渡すとは何事ぞ、先方は
 商賣である勝手な真似をするのは當り前だ。
 内閣總理大臣を始め歴々の國務に參する人、彼等には素破らしい威嚴が

ある、併し彼等は法律以外に働くとは能はぬ、其威嚴は絶對に非ずして
 條件附である、唯國民は之が監督權を有してゐる、國民の輿望に負いた
 施政をするなら彼等は陛下の御前に恐入らねばならぬ、即ち大にして
 は國務大臣、小にしては市長市參事會何れも然らざるはなし、市參事會
 が不都合を働き市會が横暴を極めるのを黙つてゐるやうなとでは、是れ
 彼等が悪いに非ず市民が悪いのだ所謂論を強盜的に奪取されたと云ふな
 ら兎に角自分が勝手に之を捨てるとは何事だ。

獨逸や白耳義其他歐洲の都市に於ける發達の歴史を考へると、王さんや大名どもが其威光に任せて苛斂誅求を行ひ頻りに人民を苛める、人民の方でも最初は賄賂などを贈つて可成其厄を免れやうとしたが、王さんどもが益々増長して際限がないから、遂に人民が反抗を起し牙籌を抛つて劍戟を執り自由都市を形成して自ら守るやうになつた、茲に於て初めて自治制が起つた、結局は血を以て憲法を購ふといふやうになつた、日本は獨り然らず人民の努力に待たないで、聖天子の難有い思召から憲法を

賜はり市町村制を賜つた、此實に貴とい難有い思召を何とも思はず自分に骨を折らなかつたから怎うでも可い、折角下し賜つた寶の鍵まで泥棒に渡すとは何たる事だ吾輩が『國民讀本』に悪い議員を出すは陛下に不忠の臣であると説いたのも之が爲めである。今日の事は多言を要せず、唯鍵を取戻する在る、鍵を取戻さへすれば可い、此鍵の前には何人と雖もお辭儀をしなければならぬ、之を取戻して等閑にせず十分尊重すべきである、畏くも陛下は教育勅語に國憲を

重んじ國法に遵ひと宣らせ給ふて、小兒の時分から國憲の重んずべく國法の遵はざる可らざるを教へ込む思召である然るに東海道の何所かには警察官と胡麻の罫とグルになつて悪いをした例さへある（大阪にはそんなとが有つたかどうか知らぬが）選舉の如きは弊害百出して、有志と唱へ政治家と稱する輩、即ち政治を商賣にするものが出來て、善良なる市民は之を煩さがり、障らぬ神に崇りなしといふ料簡から力めて政治に遠かるやうになつた、今や諸君の叫破に由り善良なる市民の覺醒を促

がし、茲に此選舉、寶の鍵の使用を誤りなからしめんとするは實に結構なとで、吾輩も今少し暇さへあれば選舉の濟むまでお手傳ひがしたい程だ。

猛獸は恐ろしい、其に逐はれたなら逃げるに如くはない、併し何時までも逃げてゐる譯には行かぬ、人には猛獸の如き暴力はないが智恵があるから之を追拂ふ工夫が出来る、今は逃げてゐる場合ぢやない、猛烈なる火を以て之を追返し更に之を焼くべき時である、惡物を焼いて退治しな

一四
 ければならぬ、是れ市民が國家に對する、憲法に對する一國一家一身の利益に對する義務である責任である、更に衛生上のことに譬へて言換ふれば今日は市政の大消毒を行ひ清潔法を施こし黴菌を拂ふべき時である、さすれば都市は健康を保つて發達するに違ひない(大阪日報)

◎帝國憲法につきて

高田法學博士講演

帝國憲法に就いて話ませう、憲法政治は初め英國に創り、明治二十二

一五
 年二月十一日に我邦に發布された、其日早朝に陛下には宮中の賢所に
 出御相成ることで御誓があつた、朕及び朕が子孫は憲法を守りてあやまら
 ざらん事を誓ふ、祖宗の靈幸に之を記せよと、それより文武百官を集め
 て發布式を擧げられまして、その時には朕は爾及びその子孫は立憲政治
 の負擔に堪ふるを信するが故に、朕は此の憲法を發布するとの意味の勅
 語があつたそれ以來は日本は東洋一の立憲國となつた、何故に立憲政治
 がいゝか、それには種々の理由あれども第一に他の政體よりも一層多く

愛國心を増すからである、何故かといふに愛する心といふは、相互に盡すといふ事から起るので、此の場合で言へば國の爲に盡す機會が最も多くそれが爲愛國心を増すのである。専制政治は租税を出すより外には盡す道はない、専制政治は國の爲に愛ふる愛國者を牢屋に投げ込む、然るに立憲國では國民が主となつて政治を心配する、それで國に盡す事になり大いに愛國心を増すのである、彼の日露戦役に、日本が勝つたのは種々の原因もあらうが、日本が立憲國であるといふのが大なる原因の一に數へ

られて居る、少くとも戦敗國たる露西亞は然かく考へたのである、左れば露國は敗戦後何をしたかといふに、多年血を流してまで拒絶した立憲政治を實行したではないか、又日露戦役を最も近く見物した支那も然かく考へたのである、左れば支那は日露戦敗の原因に鑑みて、是亦立憲政治を採用せんとして準備に着手したのではないか、支那は九年すれば立憲國となる波斯土耳其も立憲國だ、故に文明國は皆立憲政治であるといふて差支はない。

千載不磨の精神の宿れる帝國憲法は如何、その精神の宿れるは如何なる點に於てかといふ事を知らぬ様では國の爲に義務を盡す事が出来ぬ、憲法第一條に「大日本帝國は萬世一系の天皇之を統治す」とある、帝國とは何か、君主政体の中に帝と王との別がある、帝國といふのは世界を自分の國とするの謂で、王國とは自分の國ばかり領してゐるの謂である、彼の秦の始皇に徴しても明かである、彼以前の支那は所謂春秋の時代で數ヶ國に分裂してゐたが、彼は之を統一した、そして帝號を稱した、彼

や素より世界を統一したので何でもないが、其時代では世界は之れ丈なりと思つてゐたのだからそれでよい、西洋で初めて帝號を稱したのは羅馬のオーガスティス、シーザーである、これは彼の伯父の名を取つて付けたので「インペレトル」と云ふ意は、知られたる土地（ノーンウォールド）を皆持つて居たから斯くはいふたのである、近代の皇帝でも、露西亞は「ツァー」といひ、獨乙は「カイゼル」といふのも、元は「シーザー」から出たのである、理想は羅馬にある、諸君は此の帝國なる文字を決して

見逃してはならぬ、又忘れてはならぬ、諸君は此の國をして眞の帝國たるの意義にかなふ様にすべく考へねばならぬ、だが、今日は時世が違ふから好戰國の民たるは不可である、此の日本をして世界國（ウワールドパワー）たらしむる事を記せねばならぬ、國には小、中、大國の上に世界國がある大國の仕事は、影響がろの大陸にのみ止るのであるが世界國となればその一舉一動すべて世界に影響を及ぼすのであるから、苟も帝國なる文字が憲法の眞先に書かれてゐる國の民はその國をして世界國た

らしむる義務がある。

日露戦争によつて吾國は一等國となつた、これは軍人の力に依つたものであるが二十億の借金をした、しかし一等國にはそれ相應の身上を持たねばならない、それだからこの一等國を永く保つ爲には、諸君が大いに活動して此の身上を得るよう努める事で、それには何處までも對外觀念を發達せしむるが肝要である、諸君は世界の舞臺に乗り出し、交るべきは交り、争ふべきは争ひ、出来るだけの富を取り込まねばならぬ

「貿易は國旗に従ふ」といふが、彼の英吉利人などは決して國旗に尾いて行かず、自ら真先に飛び出して事業をやる、これが英人の偉い所である。「キツチナー」將軍は南阿戰役に大なる手柄のあつた人で、一体この戦争の原因はといふと、南亞弗利加には金剛石の産が多いので、英吉利人が澤山行つて植民地を數多造つた、和蘭人も同様にトランスバールの植民地を作つた、英人にセシルローズといふ人傑があつたが、此の人は悪く言へばまあ土方上りの様なもの、此の人が思ふにこんな植民地が英蘭

兩國に分れて衝突の絶わぬのは損だから、統一の念を抱き、倫敦なる植民大臣「チャンパーレン」にこの由を建言した、そこで兵方を以てオランダの勢を破り植民地を併せた、英吉利人は「セシルローズ」は帝國製造者であるを誇つてゐる、印度も一私立英國東印度會社の財産として一時財産目録に書かれた事があつた、人口三億の土地が一會社の財産として、はあまり事が大き過ぎるからとて、之を國有にせむと「フォックス」が議會に提出したが、直に否決され、その次に「ピット」が再びその案を提出

して漸く可決された、就も近頃ではそう矢鱈に、否絶對に國を拾ふ様な事は出来ないが、國を廣くする計りが能でもない、只その發達を計り商業をもつて世界に勇飛するのである、然るに之が出来ないとあつては、憲法の最つ先きに萬世一系の天皇と書き得る我が國の誇を傷けるものである。

次に「統治す」といふのは、これも深い意味をあらはしてゐる、「天皇は統治權を總攬し此の憲法の條規によりて之を行ふ」といふは第四條に示

す所である、畢竟立憲政治は統治の中に意味されてゐて、目二つの中一は内に一は外に向ける爲である。

近來日本では、この政治の評判が宜しくない、けれど信用を置かぬといふようでは不可ない、それといふのも此の政治の悪いのでなくして、これを用ふる人が上手でないからである、如何に精巧なる機械でも、悪く使へば何の役にも立たぬ、立憲政治は器械である、この器械は舶來品で比較的新しいのであるが、運用する稽古が足らぬでは到底六ヶ敷い、で

今日其の様に批難のあるのも、稽古する必用を知らぬのが根本的の誤りである。村會、縣會、國會等の選舉權の利用によりて國家の盛衰が知られる、この權利は公權即ち義務である、是を正しく使用が出来ぬとあらば、聖天子の御心に反する者で、公權を全くし得ぬ人である、假令へ村會議員を選舉するにしても、憲法を重んずる者は少くとも政治思想といふものを持たねばならぬ、政治は政治家が執るのであるが、政治團體の人としてもこれ等の思想は必要である。

今後の國民は、對外觀念を以て世界を眼前に浮べねばならぬ、兎に角右の目では世界を見、左の眼では内を顧みるといふ事をやらぬと「帝國の光」が失せるといふ事になる、これ即ち忠君愛國で、これ以上の忠君愛國はないのである、國民の忠君愛國的の舉動は戦時に於ても勿論必要であるが、平時では立憲政治の確立と世界政策の實行とが時代の二大要求であらうと思ふ、忠君愛國の眞意義を今日の時代に當て嵌めると、正しく此の二である、人はよく士魂商才といふ事をいふが、士魂を以て憲

法を擁護し、商才を振つて世界的活動をなさざる國民は、決して世界的大國民たる事は出来ぬ、左れば曩に薨去せられた伊藤公爵も、亦我が早稻田の大隈伯爵も、政事上にも教育上にもこの主義を以て國民を指導せられたのである、だから吾々後進もこの心を以て心とせねばならぬのである。

◎支那につきて 文學士 池田夏苗氏

私は京都の産れで只今の家は西宮にあります、目下清國の正月でその

間四十日許りの暇を得まして歸朝した次第で、別に参考書なども持参してゐませす、纏つた話は出来ませんが、本校とは淺からぬ縁がありまして前の校長の時一度参り、又先達つて伺ひ、而て今亦この談話會に出る事になりました、前後丁度三回になりますので、私共の若い時には十八史畧などを教へられて、支那に對する思想は大分あつたのですが、昨今では青年者の支那に對する知識が少し薄い様である、前後二回の戦争によつて、北部滿洲に對しては、多少御承知の方も出来た様ですが、南部

支那に對しては全く駄目で、私共に、支那へ行くに雪でお困りでしょうと尋ねる人がある、これは私共に同情を寄せて下さるのでありませうけれど、その人の無學を同時に現してゐるのです、だから我々の文明思想道徳上の思想の根源なる支那は、もつと研究さるべき必要があり、又諸君もいくらかは之に對する思想を持たなければなりません、私は支那には之で三年七八ヶ月居ますが、その考へで随分出來る文歩きました、とはいわ足は達者でないから、大方は船と汽車で行つたのです、で支那

本部以外の事については知らないが、本部について申せば、面積は日本の二十五倍もあるから、之を皆知り盡す事は六ヶ敷い、それで私は楊子江流域のみ踏査致しました、一体支那本部と申せば、黄河流域に、中部の楊子江流域、それから南部の珠江流域と三つの部分に區別されてゐるので、北清、南清につきましては足も體も行つた事がありませんから、その方は偕て置いて楊子江流域にのみつきて考ふるも日本人は大なる誤解をしてゐる、よく作文等に南船北馬なる文字を用ひますが、

これも支那へ行つてみればよく解る、私の居る所は蘇州と言つて、地上の極樂であるなど、謬にも言ふてゐる極く良い所ですが、私は其所で半支那半日本の生活をしてゐた、所が轉宅する時に、色々な我樂多を運ぼうとするのに、蘇州には道路がありません、それは幅一丈もあれば廣き方で、甚だしきは三尺位の道路がある、勿論車の通る筈がないので、船によつて運搬する、何んな家でも河からは三町以上は隔つてゐない、城内には到る所に川があつて、全く船のみで交通を計つてゐる、秋にな

つて紅葉狩を爲るといふ事になると、全くの舟遊びで、それといふのも、山に行にまで河があるといふ證據であるといふ風であるが、北へ行けば全く反對で、廣い大きな道路があつて、皆馬車——六頭位の堂々たるものです——或は駱駝で行くのですが、之が所謂南船北馬である、この様に趣を異にしてゐるのに、私共が南清へ行てゐるのを、日本人が北馬同様の所と思ふのは謬つてゐる、そのみならず、支那の精神につきても大なる誤解があります、私共等の一番困るのは日本人が彼等を輕蔑する事

三十四
 です今日支那に於ける短所缺點を擧ぐれば成程悪い所も多い、しかしそ
 れは何れの國とも免れ難い事で、特に支那をのみ輕蔑する譯のものでは
 ありません、政事的方面の事では此の席上では申されませんが、貿易
 上について申上ぐるが、大阪の商人で支那貿易をして失敗し、巨大な損
 害を受けた人があるが、その原因はと尋ねるに、畢竟は支那を研究しな
 かつたからで、例へば木綿を輸出せんとするに、支那人は吝嗇である
 からといふて、日本に普通に用ふる強い木綿織を輸出したが、彼等

三十五
 は日本の綿織を好まない、そして廉品よりも高い品を買ひ度い、所謂
 虚榮心なるものが甚だ強いのでうまく行かない、それで失敗致した譯で
 ありまして、要するに支那の研究が足らぬからであらうと思ひます、或
 る商人が私に曰ふのに、師範學堂の高等師範部つて中學校程の程度では
 ありませんか、尋常師範部といへば高等小學位のものぢや無いですかと、
 萬事頭から貶して掛る、これが不好いですが、こういふ時には私は努めて
 誤解をどくのですが、之は甚だ悪い、とにかく支那は研究の餘地が澤山

あるのだから、未來に於て諸君は宜しく研究されたいものです。

先づ私が神戸より支那へ歸るとすれば、神戸より長崎まで五百哩、十五時間を要し、都合さへよければその日の午後四時に、長崎より乗船する事が出来、それより真西に航して四百八十海里、四十時間かゝつて上海に着きます、丁度朝の二三時頃甲板に出てみますとそろ／＼海の色が黄色く見出し、西へ行くに従つてだん／＼と泥の様になります、それから五六時間経ちますと陸地が見出します、これを崇明島といふて楊子江

口の三角洲で、海面よりは僅か六尺計り出てゐるのですから島といふ程ではありません、島を通り越すと河の幅が十二哩程で、嘗て私は楊子江を下つた事がありますが、河下に行くと殆海の様な氣がします、けれども實に不愉快な色で、日光でもそれに照りつけると蒸しあつい厭な氣がします、それから河口より南へ折れて黄浦江に入り、約十哩行くと西岸に上海がある、一体上海は河岸にあるのではなく、海岸にあるのでもない、吳淞といふ砲臺のある所から、楊子江を真直に上流に上り、それか

三六
 ら横へ這入るが横の南へは四千噸以上の汽船は入られない、そこが上海である、此の地は世界の模範的植民地とも稱せられ、舊市街は上海縣城といひ、その西に英米佛の租地があり、今では合して世界共同居留地となつて居り、日本居留地は一萬二千計りで建築はすべて宏大な西洋式で自動車は巷に驅けちがつて、廣い道路を歩いて見ようものなら本統に西洋の都會にでも來たような氣がします、馬車や、電車や、自動車や、などが絡繹として仲々素晴らしい、私は此の地で初めて護膜輪の馬車に乗

つたのです、上海には殆ど世界各國の人間がある、世界人文の博覽會とも稱すべき所で、必ず一國の標本を引き出す事が出來印度の黒い查公もゐます、上海より鐵道は南京の方に通じ七十哩程もありませう、陸も船も夜は旅行が出來ない、といふのは強盜が出没する事で、先達ても日本の小汽船が矢張りこの厄に遇つたさうです、西湖にいたる鐵道は初めて支那人が經營したものだというて自慢してゐます、この西湖は非常に風景のよい所です。

上海は楊子江口の貨物集散地ですが之を運搬するには一切船でしす、水路は到る所に通じ運賃も廉いから、汽車があつても貨車は無用で全くありません、この水路で思ひ出しましたが、嘗て漢口に参り、山に上りて山が多いか水が多いかと思ひ見た所、陸地は眼界の三分の二で水が三分の一位であつた、であるから鐵道を敷くにも橋を架ねばならぬので高くて、丁度日本はトンネルを掘らねばならぬから、經費が高く従つて距離の割合に賃錢が高いといふのと好一對の極端であります、楊子江の舟

便の通する距離は、冬は六百哩で、三千五百噸以下の船が漢口まで上り夏は六百三十哩で一萬五千噸の軍艦が往來します、宜昌までは小さな汽船ならば平氣で上りますが、それから上流の重慶に至る間になると最も困難で、嘗てリットルといふ英人が小汽船で溯つた事がある溯る時は水方に抵抗するのであるから危険はないが、下る時は水力が加はるから危険である、それでその小汽船は其地で腐朽する儘に捨てゝあるそうです私は嘗て楊子江を成都まで行つた事があります、此の宜昌から上は路を

陸に取れば賊の害があるので兵隊が付く、銃を持たないですから、萬一の時には何の役にも立たないから、不安心此の上なしですが、一人に日給三百文(貳拾錢)を遣らねばならぬので大抵は舟で行きます、重慶まで早くて四十日、客一人に船頭が五十人、賃銀約七拾兩、船は水流の爲漕ぐ事は出来ぬので、兩岸には道があり船頭が寒中でも裸體で三丁計りの竹の綱で引くのです、三十日分の米を宜昌で買ひ込み副食物としては豚があるが、朝夕そればかりではたまらないから、あらゆる雜貨を買込み

ますさういふ風にして重慶まで行きそれから成都まで十二日間籠に乗つて行く、荷物は一人前八十斤を定量として人夫に擔はしめ、その賃銀が一日四百文、三日毎に百文づゝ褒美としてやる、自分は中央の監に乗り一行列を命令の通り動かすのは中々愉快で、内地では一寸見られぬ圖です。

成都はあの詩にある錦官城外柏森々といふ所で、仲々奇麗な立派な都會で日本の教師も三十人程居ます、それから猶西へ進むと西藏で先づ楊

子江沿岸の旅行はこれが最後の地です、要するに支那内地の旅行には大變な支度が要ります。先づ最初の支度としては極く鹹い副食物を携帶する事で、二三粒あれば飯の三杯は食へるといふ程の豆の煮付などが極く良いです、でなくては罐詰などでは直ぐ腐敗するから不可ません、次に藥の要る事、蚤取粉の必要です、彼地は例の南京虫が多いので旅店に宿すると寢床の下に撒きます一度に一箇は要りますね、宿賃が貳拾錢でその割にすると蚤取粉が非常に高いですが仕方がない無聊で何もする事が

ないので、ある時數へて見ると床の下に居たわ居たわその數實に三十八疋と注せられました、蚊も出る事ですから蚤取粉を焚くとこれも防げます、で三十日の旅行には蚤取粉十斤位は用意しなくてはなりません、それから支那の旅宿は今言つた如く貳拾錢でベッドがあつて布團が無い貳拾錢の宿と來ればほんの屋根代であるから寢具を用意するのです、それから洗面盥、茶碗も必要があります、其外目的によつては地圖案内等も要りますが、大概副食物、蚤取粉、寢具、洗面器、茶碗位のものです

他人が何と言はうが一切頓着しません、私は嘗て或る所より七百金を依
 托され、日本へ送金する爲に支那銀行へ人夫に運ばせて持つて行きました
 た所が金を取つたなり受取證も何も呉れない、私は不安心であつたが、
 家に歸つて丁度四日目に、確に日本へ送金仕候といふ通知が正金銀行か
 ら來たので、やつと安心し、彼等の人を疑はない、而して人にも疑はれ
 ない事を感じ致しました、彼等は壹厘もむだには費さない、けれども交
 際などの事になると決して惜む事はしない、共に食事をする時にも割り前

を出そうとしても取らない。
 長所は以上述べた所ですが、短所は何であるかといふに阿片を喫む事
 ず、平善勸といふ所へ行きました、其所には税關があつてその前に徑一
 尺二三寸程の密相籠のようなものが七八百も列べてある何だと尋ねると
 阿片だといふ見ると鏡餅大のものが一段二段三段といふ風に積である彼
 等の一回に喫む分量はと言へば小指の先程であるに、これは又何とした
 事かと驚きました、併しそれは僅に一部の産出です、其外に澤山出る猶

四六
それから次に金銭の運搬に困る、支那では紙幣が無いので銀貨を携帯しますが、これにも種々あつて通用せぬ所があります、五弗位は銅貨に換へて持つてゐねばならぬので重い事甚しい、この話はまづ此の位にしておいて次に支那の文明について少し話して置かねばなりません。

私はよく人から支那がと言はれるが、正直な所支那は褒める値打がある、勿論悪い所とてもあるが善い方も頗る多い日本の人民は、萬事紺屋の明後日であるが、支那人には一切無いと断言します、その品物は粗製であ

るにせよ、約束は多に違はない、その邊になると日本人は賢過ぎて真面目に働く事は支那人に及ばない、世人は支那を目して吝嗇だとか守銭奴だとか言ふが實際よく金を儲ける、先年ある人が空拳赤手爪哇に飛び出して、此頃になると海軍の方へ貳百萬圓を製艦費として献納した彼等は實際は守銭奴でも何でもないのである、そこで金を貯めるには少しの金だと穴に埋める大金になると銀行に預けず會社を立て、正直な番頭に依托します、一旦信用すると堅く信じて財産の全部をも托して仕舞ふ

他人が何と言はうが一切頓着しません、私は嘗て或る所より七百金を依
 托され、日本へ送金する爲に支那銀行へ人夫に運ばせて持つて行きました
 た所が金を取つたなり受取證も何も呉れない、私は不安心であつたが、
 家に歸つて丁度四日目に、確に日本へ送金仕候といふ通知が正金銀行か
 ら來たので、やつと安心し、彼等の人を疑はない、而して人にも疑はれ
 ない事を感じ致しました、彼等は壹厘もむだには費さない、けれども交
 際などの事となると決して借む事はない、共に食事をする時にも割り前

を出そうとしても取らない。
 長所は以上述べた所ですが、短所は何であるかといふに阿片を喫む事
 ず、平善覇といふ所へ行きました、其所には税關があつてその前に徑一
 尺二三寸程の密相籠のようなものが七八百も列べてある何だと尋ねると
 阿片だといふ見ると鏡餅大のものが一段二段三段といふ風に積である彼
 等の一回に喫む分量はと言へば小指の先程であるに、これは又何とした
 事かと驚きました、併しそれは僅に一部の産出です、其外に澤山出る猶

それで足らず印度から輸入するのだと聞いて又もや喫驚しました、阿片
 亡國論なるものが入釜しく云はれるのも無理はない、處が明治三十九年
 の九月に、政府は禁煙令を發布して阿片を禁じた、其の後一ヶ月程する
 と何所の旅舎も、劇場も、阿片を喫する設備の無い所は無程であつた
 のが皆止めてしまつた、これ又何か譯が無くてはならぬ即ち自覺的愛國
 心によつて然るのだ、又近頃國會開設について血書して請願書を提出し
 たものもある位、彼等の愛國心は必要に應じた愛國心で支那帝國はこの

五〇

愛國心によつて命脈を保つてゐます。

鐵、石炭は無盡藏、人口は日本の六倍、面積は二十五倍、此れ等のもの
 が覺醒した曉には支那は決して馬鹿にした國ではない、私達が支那に行
 つてゐるのも日本化する目的ではなく、只だ文明を支那人の頭に注入し
 さへすればよいのだと思つてゐます、兎に角、那に就いては一般にもつ
 と眞面目に研究してもらい度いと思つて居るのであります。

◎清國の商業

犬養毅

五一

五二
 清國の政体は全く我國と異なつて、夫の我朝に於ける徳川三百年間太平の如く津々浦々に至るまで、徳川氏が施政に對して一人の反抗者を見なかつたやうなことは、清國では夢にも想はれない所である。これはつまり我國の政治が干渉主義なのに反して、彼の國では放任主義から出た所以である。蓋し彼れは我れの如く法治主義ではなうて徳化といふことを以て王道の根本義となし、歴朝がこれ相傳へて今日に及んだものであるから、聖主が君臨して居る間は天下が泰平であるけれども、一度暴君

とか庸主とかい出たとなれば、世の中は忽ち亂麻の如く亂れ行くのが常である。だから人民は到底政府のみをたよつて生命財産の安固が保たれないから、勢ひ自衛の策を講せねばならぬことゝなつたのである。彼等が今日のやうな鞏固の同族結合と、確固不拔到底くつがへすことの出来ない獨立自尊の精神とを有つて居るのは、全く三千年間放任主義の政治の下で、自然的に涵養せられたに外ならぬもので、清國人が今日實業界に於て列國に畏れらるゝ所となつたのも偏へにこれがためであるのだ。

彼等が南洋とか米國等で維れ粗衣粗食に満足し、我々營々として貯蓄したところの財寶はすべて之を本國に持歸つて如何に處分するであらうか、これが頗る興味ある問題であつて、同國の現狀過去が忍ばれる材料であるのだ。

素より王化は普ねからずして、無政府にも均しい彼國では、匪賊の爲めに直ぐと掠奪し去らるゝの虞あるばかりではなく、政府とても多少でも財産を有する者と見たならば忽ち苛税を課するので、暗夜に乗じて潜か

に土中深く埋め置く者もあるけれど、斯くては何時發見せらるゝも圖り難いから各地方の名門豪族に委託して貯蓄するのを常とするらしいのである。しかし、名門豪族と云はるゝ程の者でも、誰れしも土兵を備ふて財寶家屋の警護に備へ、金庫には夫の有名な宇都宮鈞天井といったやうな仕掛がしてあるから、賊徒でも輒すくは侵入することが出来ないのである。されど清國には屢々内亂があつて匪徒が蜂起し、到底一豪族位でもつて抵抗することが出来ぬのだから、斯る時は上海とか香港とかの粗界

にある銀行に預け入れ、以て匪徒の闖入を防ぐ傍ら同時に清國政府から
 收斂を免れるのである。それで清國の開港場が他國と反對に騒亂起る毎
 に地價が暴騰するのは何故であらう。これは地方の富豪がこんな場合に
 なると妻子財産を擧げて避難と出掛けるからである。けれども此れ等は
 開港場に近寄つて居る地方とか又は交通の利便な地方であつて始めて出
 來る所で、夫の甘肅省とか雲南省とかの如き僻遠の地方では變を聞いた
 とて、オイソレと直ぐに難を避けんとするが如きは到底不可能のことで

ある。そこで彼等は彼等でもつて自然的防衛の策として古來から家族的
 團結を作り、其後援で以て商業上にも目醒しい働きをなし得るのである
 、而して彼等家族間では共同墓地を有つてを、其中に寄宿者といつ
 たやうな教育の設備があつて、家族中の貧窮なる青年は此所に起臥し以
 て學業を習得する事として居る、又墓地には祖先英傑の墳墓があつて絶
 えす子弟を激勵し青雲の志を失はしめぬやうにして居るのである。それ
 で墓地の周圍には堅固な城壁を繞らして以て一朝事ある時は、家庭舉

つて干戈を携へ墳墓の地を守護することゝなつて居る。斯様に清國人は
 取も團体に富むのみではなく、獨立自尊の精神に厚く、且つ自ら奉ずる
 といふことが極めて薄いので、どんな勞苦にでも耐へ得るといふ國民で
 ある。そこで諸君が學校を辭して以て世に出でんとするの時に當り、彼
 等を相手として商業界に馳驅なさんとするには、到底尋常一様の心掛で
 は之と顔頑することは出来んであらう。が、唯々吾等日本人の依つて以
 て頼む所といふのは、彼等の事實が個人的であつて、しかも公衆的のも

のがない事である。即ち現今のやうな状態であつては、清國內で會社が
 成立するなんかは逆も駄目な話であるが、目下國民の生命財産を保護
 すべき民法とか又は刑法の起草中であつて、同時に十年後には兎も角憲
 政の實施をも見るであらう、サアよくなつた曉には種々な營利的會社の
 勃興を見るのは必然の結果であつて、日本人の會社に取つてはそれこそ
 たいへん勤敵といはねばなるまい。おまけに方今世界の趨勢は何うであ
 るか、歐米諸國では其生産額が略同一となつて、自國の領土内で競争す

六〇
 るの愚^ぐな^なのを知^しつて、専^{もつ}ら^ち力^{から}を南^{なん}東^{とう}方^{ほう}面^{めん}に注^そが^うと^して居^をる^では^ない^か
 現^{げん}に清^{しん}國^{こく}では英^{えい}、佛^{ぶつ}、獨^{どく}、露^ろの各^{かく}國^{こく}が皆^{みな}めい^くに資^し本^{ほん}を^{くだ}下^いて、先^まづ
 交^{こう}通^{つう}の利^り便^{べん}を壟^{ろう}斷^{だん}せんと企^き圖^としつゝある^では^ない^か。我^わ國^{こく}と^もこ^れ等^ら
 諸^{しよ}國^{こく}と^{おな}じく、將^{やう}來^{らい}の活^{くわつ}躍^{やく}を^こ試^しみ^{やう}と^する場^ば所^{しよ}は、ヤ^ハリ^一衣^い帶^{たい}水^{すい}を
 隔^かつ^に過^すぎ^ない眼^{がん}前^{ぜん}の大^{たい}國^{こく}である^から、諸^{しよ}君^{くん}たる^もの、責^{せき}任^{にん}は^中々^く並^び大^{たい}
 抵^{てい}で^はな^く、こ^れ等^ら多^た大^{たい}の資^し本^{ほん}と利^り便^{べん}とを^も有^もつ^て居^をる歐^{おう}米^{まい}の諸^{しよ}強^{きやう}、就^す中^{ちゆう}
 近^{ちか}頃^{きん}益^{えき}々^く發^{はつ}展^{てん}せ^うと^して居^をる獨^ど逸^{いつ}と、彼^かの晴^はれ^の檜^{ひの}舞^ま臺^{たい}に^たち[。]シカモ

至^し難^{なん}なる清^{しん}國^{こく}人^{じん}相^あ手^ての實^{じつ}業^{げつ}界^{かい}に角^{かく}逐^{じゆく}する^ので^ある^から、其^かの覺^{かく}悟^ぶも充^{じゆう}分^{ぶん}
 なる決^{けつ}心^{しん}が^なけ^らば^なら^んの^であ^る。

（大阪商業學校に於ける演説要領、大阪毎日……但し語調の文責は著者にあり。）

◎園藝趣味と其普及

園藝趣味と申しますと、なんだか方面が違つたやうな感がないにし

もあらずですが、これは曩きに京都市で開かれました全國園藝大會に依つて、聊か感じたところがあるからで御座ります。既に其大會に於て爲された各専門家の講演その物が、各自得意の方面から研究せられた結果を發表されたことゝて、單に園藝専門家に取つて有益であるばかりではなく、吾々素人と雖も不知不識の間に園藝その物の趣味を會得せしめた利益があつたのであります。

抑々世間では園藝といふことを誤解して、彼の所謂箱庭作りなるものと

混同して、園藝を單に生産的專業であるものと思ひ詰めた者が少くはありませぬ。けれども、園藝なるものは一般の庭作りのみを云ふのではない、否庭作りも園藝の一部であるけれど、園藝と申す廣い意義の内には、蔬菜の栽培も含まれて居ります、又は果樹の栽培も含まれて居るのであります。

彼の朝に東籬の下一本の菊を植え、夕に朝顔から釣瓶とられて貰ひ水するものも園藝であります。これを大にしては甲州葡萄、紀州蜜柑、丹波栗

六四
西條柿等の如きは果樹園藝中の雄なるものでも申しまして、尾張大根天王寺燕、新田西瓜の如きものは蔬菜園藝の粹な方面とでも稱すべきものであります。で、園藝家とは如何なる方面にあるかと申しますと、我國の農業家は何れも此の方面に屬するものといつて差問へなからうと思ふ、即ち我國の農業家は農業家であると同時に、副業としては蔬菜とか果樹類を栽培せない者はなく、此の点に於て彼等は總て園藝家であるべき資格があるでは無いませんか。それで中流以上の國民になりますと。

家屋の前後に幾らかの空地を置いて、多くの金と意匠とを費さる迄も形ばかりの庭園をしつらい居らぬ者は殆んど稀れなではありませんか、彼の神社佛閣等に至りますと、其の庭園なるものは寧ろ公園と申す程の規模を備へて居るのが尠くはありません。尙甚しきに至つては富豪の邸宅とか其の別邸の庭園に數千金を投ずるのを物の數とも思はぬではありませんか、モ一つ越しては一箇の盆栽にすら數百金を費ひて猶且つ慳色が無い者すらあるのであります。これを思へば一概に農業家のみと

は云はず、山川林野の風致に富んで居る日本國民は、殆んど生れ乍らにして園藝的趣味を有して居るといつても宜いのでムります。それが又々近時農業が發達して來ると共に、農家の副業である果樹園藝、蔬菜園藝等大に隆盛となつて參り、同時に大都市は勿論のこと、町村等に至る迄公園地又は遊園地を設置して、花卉園藝の流行が漸次其の盛んなるに至らんとするのは随分喜ばしい現象でムります。

しかし、其の喜ばしい現象の反面には、又随分と憂ふべき現象のないの

でもムいません、夫れを何かと申しますと、前述の如く農業隆盛に伴ふ蔬菜園藝、果樹園藝が益々改良せられ、盛大の域に向ふに反し、庭園園藝とか花卉園藝とかが今一段手緩いかの感があるやに存じます。勿論富豪貴族なるものが、金錢を措きせずして自己の庭園、花卉の手入れに力を注ぐのは随分と流行は致しますもの、これは單に彼れ等少數の人士が娛樂に過ぎないので、一般國家の共有、國民が共用とするには足らないのでムいます。例を擧げて申しますと、東京の日比谷公園を除くの外

六八
 は、大概舊幕時代に於て諸侯が經營して居つた城地とか園圃とかを其の儘襲用し來つた公園が多く、眞の明治式庭園として誇るに足るものが未だ無いのは頗る遺憾でムいます。彼の岡山の後樂園とか、高松の栗林公園とか、乃至は金澤の兼六公園にしてからが、日本の三公園だとか何とか誇つて居るもの、何れも各封地の大名が贅を盡したる庭園の遺骸に過ぎないではムいませんか。が、それも宜しいとしてからが、地方財政の比較的富裕なところでは、各公園の修理保存を完全に爲し得るも。所

謂舊封十萬石以下の小市邑にあつては、公園といふもホンノ名ばかりであつて更に何等目立ちたる新設備を爲し得らるゝでもなく、唯々荒廢するがまゝに委せて居るのが尠くはありません。彼の有名なる神社、佛閣の庭園といへども、時勢の推移と社會組織の變化に伴つて、寧ろ衰頽に陥るとも、改良せらるゝが如き傾向のないのは、己むを得ざることゝ云はゞ云はるゝものゝ、何とか之等の振興策を講じ度いものではありませんか。

七〇
 ところで、或る人が謂ひましたやうに、萬事西洋趣味を加へて來た今後の日本では、勢ひ公共的庭園を盛んにして、恰も昔時寺院の爲せし所の庭園を、今後は公會堂、音樂堂又は圖書館とか各種陳列場等、所謂公共的建築物の附屬事業として經營施設することゝしたならば最も一大便法であらう。と如何様公園を有する市町村が單に地方繁榮策のみを見地からせすと、市町村自身の修飾として年々幾何かづゝの公園經營費を支出して繼續事業としたならば、其の地方々々に於ける特種の地形と草木の

利用が出来て、地方の誇りとするものが作られ、遂には風光絶佳の我が國山水が、人工と相待つて益其の美を發揚するやうになるのでムリமாகくしてこそ、一方國家事業となるばかりでなく名にし負ふ東方國のパラタイスといふ稱呼にも副ふことが出来るではムリませんか。
 若しか今日のまゝ、自然に抛擲して置くとしますれば、それこそ、果樹、蔬菜の兩園藝盛況に引かへて、最も山水の美を誇るに足るべき、慰安的庭園園藝は、舊幕時代に負けて仕舞ふではムいませんか、兎に角、園藝

その物は、その種類の如何に論なく、成るべく吾人國民間に其の趣味の普及が謀りたいもので、それと同時に公共團體の經營に係る明治式大公園が相踵いで各地に勃興し來らんことを望んで止まないののであります。

七二

◎會社の監査制度に就て

私は現今の營業會社が商法の規定に依る監査役を置いて決算監査の任に當らしめつゝあるのに就て、所感を一言し併せて其の改良せざるべからざる点に就ての所以を述べたいと存じます。

諸君、諸君は頃來の新紙が頻りに傳ふる所の會社破綻若しくは醜狀曝露に就ての報道を屢々耳にしたるならん。爰に一大引例とすべきは、彼の有名なる大日本製糖會社が一度其の内狀否聽くに堪へない醜狀を曝露して將に破綻に瀕せんとしたるの事實を記憶するならん。ところが圖らずも此の問題は延いて會社の營業監査法に關する問題が、はしなくも世人の注意を喚起したのではありませんか。で、其の内容如何と窺つたなら

七三

ば、世論の趨勢なるものは從來の監査役制度に信任を置かないといふのが萬口一致するやに見受けまします。随つて此際英國に於けるが如く、公共監査所の制度にならつて、會社監督の技術に慣熟し、それと同時に、會社營業の盛衰に對して直接利害關係を有つて居ない機關をして監査の任に當らしめ、以て今日の缺けてる所を補はんとするの説が盛んなやうでムります。

抑々從來會社に於て監査役を選任するに當りますると、その必ずしも株

主が各自に代つて眞實から株主の利益を防衛するの智識技術を備へたといふ人を推薦するのではなく、多くは取締役中の有力な者が自己に縁故あるといふ人に、其の衣食の資を授くることか、種々の因縁情實を以て監査役なる神聖の職に就かしむるのであるから、勞ひ獨立權利を振舞はずべき筈の監査役が、却つて取締役の下風に立つて其命を維れ奉じ、己むを得ず監査の承認を興ふるといふの風でムります。けれども時に氣骨ある人とか、又は取締役よりも地位名望のより多くある人が此の役に就く

七六

ことがあつたにしましても、これはホンの名を掲げるに過ぎないもので、これで以て世間の信用を博せんとするのに止まつて、自ら出で、會社の會計を監査し取締役の非違を正すといふが如き煩務に當るのでは無いまいせん。のみならず、中には勸告黙し難くといつたやうな風で以て、己むを得ず就任はするが斯る煩務には當らないといふ條件を付けて就職するものさへあるのであります。否な取締役なるものが斯る方寸を運らして株主若しくは社會を糊塗せんがために斯る輩を擔ぎ上げ以て自己主義の

七七

手段を執るのであります。

斯く條項を一々擧げて見ますと誠に現今の監査役制度なるものが不完全なものであつて、満足を表せられないといふ点に就ては諸君も定めし同感の事であらう、これは何とか改良の道を講せねばならんと信ぜらるゝのであらうと愚考するのです。これを私が唯一の論点であつて、其の果して如何にせば改良することが出来るかといふ点に就ては、所謂前述しましたるが如く、一部論者の唱へるやうに、公共監査所を設けて能く

其の希望を果すも一法でせうが、能く考へて見ますと果して論者が言ふが如く、達し得るや否やと云ふ点に就て多少の疑ひがないのでもムいません、彼の英國に於ては公共監査所の成績が擧つて居るのは、實際の事實ですけれども、其の今日に至つたといふのは多年の閱歴を経たものであつて、決して一朝一夕のことではありません。即ち始めは單に一個人の團體に過ぎなかつたものが、漸くにして王室の勅許を得るやうになり次第で世間からも公認せられたもので、今日斯くの如く嚴然として商業上

の一機關と見做され、法人組織の團體になりますまでは、監査員の養成、監査術の修練監査法の統一等に就て、其の當局者が苦心したところは、小々のものではムりません。殊に監査員其の者が最も誘惑の多いといふ實業社會に立つて、獨立公平の監査を行ひ、以て職責を重んぜねばならぬのでムいまして、若し苟くも此の點に就て缺けたところがありませんでしたらば、假令技術上その他の點に於て取る可きものがあつたとしても、監査そのもの、効果を擧げることには出來るのでムいます。幸ひ

八〇
 に監査所が世間に多少の信用を博したる後に於て、其の監査員に不心得な輩があつたとしまして、金錢の爲め徒らに節に儻り以て無体の承認を與へたとしますれば何うでせう、折角の監査所も忽ちにして信用を失墜し、監査役制度よりもより多くの弊害を來し、無用の機關たるに過ぎないではムりませんか。

然らば何うするのが便法かと申しますると、如何様公共監査所そのものが前記の如き弊害のない限りは甚だ利益のものではムいですが、然らば

一方其の主体なる監査員は如何なる方面から之を得られますか、差當り適任者を得ることが出来ないとするれば、何うして之を養成するか、將た又公共監査所が完全に設立されたとしても、監査の實が擧らない會社の計算を、會社自身が信用を置くに足らずとして監査を求めしむるに至るといふ世間の氣風は何うして之を盛んならしむるか、是等の問題には何等思ひ及ばずして、唯々公共監査所の設立を主張し、監査所さへ出來たらんには、會社の計算そのものが立所に確實と爲るが如く吹聴しまする

八二一

のは、聊か事を誇大にしたかの嫌があるでは無いませんか。尤も實業界永遠の利益の爲め、實業界の有力者が監査所の設置に盡力し、漸を追ふて以て其効果を發揮せしめんとし、計畫もありまして、甚だ喜ぶべきの現象ではあります。大体會社なるもの、監査を完全ならしむるといふ根本の方法は、公共監査所設立よりも何よりも、會社の株主自身自ら忠實に、自ら權利を執行し、以て各自財産上の利益を防衛するの一事であらうと考へられます。

八三

で、其の株主をして此心掛を有たするに就ては、今日よりも更に漸繁に更に詳細に會社の營業、資産負債其他の状況を公衆に發表せしめ、示さするの道を設くる必要があるので、今更に抑々今日の如く株主なる者が宛然他人の事業かの如く極めて冷淡に構へ、折角の株式を所有しながら恬として會社の事業状態を顧みず、一年二回の總會にすら出席せずして自己の議決権を抛棄し請はる、儘に委任状を與へ、甚しきに至つては形式ばかりの考課状さへ一瞥も與へざるの有様では、勢ひ重役等數人の輩

でもつて、私曲不正を行ふまいと思つても行はずには居られないでは
りませんか。外國では公衆から鑑定料を取つて以て正確の材料に因り、
某々會社の株式は有利なりとか、又は不利なりとかと判断をする機關さ
へ備はつて居りまするのに、我國では迷信の結果でいもムいませうが、
下らぬ御籤とか易斷に依て放資するとせぬとを決定する如き、實に社會
人士の總てが全く冷淡である、不眞面目であるといふことを表白して餘
りあるではムいせんか。

斯る次第であつて、根本義たる社會公衆の監督に缺けたところがあるや
うでは、徒らに公共監査所を設ければとて、直ちに以て會社と結托し以
て不正の事業を更に補助するかの如き奇觀を呈するに過ぎないやも計ら
れないのでムいませう。

爰に於て私は斷言致しまする。監査所設立は最も時勢に適したるものな
れども、其の設立以前に先づ會社の營業狀態を公衆に公開するの道を開
くのが、一大急務であつて、又會社監督の一大捷徑であると信ずるので

◎ 實業家の資質

八六

實業家の資質如何に就て一言致したいのでありますが、之れをいふに先づてまづ實業その物はどんなものであるかを申しませう。今仮りに實業といふ熟字に向ていはない名詞そのものに向つて定義を下しましたならば、實際上一定の規範の下に組織ある興利事業をなすものであります。國民的殖産興業と直接の關係を有し、業務の性質は確實であつて、

社會的事業の模範たるべく、執業者の利害は直ちに以て國家的經濟の消長と密接の連絡を有つて居る事業をいふのであるとでも申しませうか。斯く定義を下しましたならば、實業其の物が既に、利己的、個人的ものではなくて、その執業者の利害は直ちに國家的經濟の消長に關するものでありますから、従つて執業者たる實業家の資格は、勿論公明正大であつて、國家的、社會的、國民的、興利的のものでなければなりません。とは申しますものゝ、どんな實業家でも、時には失敗のないことの

八七

ないとも防りませぬ、この場合に際して直ちに以て國家經濟に害がある
と速断することは出来ないでムいます。然らば何うかと申しますれば
要するところ實業家の實業家たる所以といふのは、私利を營まず、私腹
を肥さず、こととして社會興業、國家殖産の上に相關連して居らねばな
らぬのでムいます。彼の適々一攫千金の僥倖を夢みて投機市場に徘徊す
るが如きは、實業家たる名譽を許すことは出来ないでムいます。そこ
で私は信するのでムいます。眞個實業家といふ名詞を冠されるものは次

の如き素質があつて、はじめて之を云はるゝものであつて、是れ等の條
件即ち素質のない者は既に實業家たる資格がないといはねばなりません
(謹聽々々)

抑々實業家の資質とは如何なる條件を備へねばならぬかと申しますれば
第一には、不覇獨立の性質を有し、利己・色慾の犠牲とならないのが肝
腎であつて、第二には、堅忍不拔の氣力を有つて、不規律な投機的の事
業をなさぬこと、第三には、凡て國民的理想を標準としまして、十分

九〇
 興利的事業に従事すること、第四には、徳行を高く持つて、實業社會の
 儀範たる責任を負ふこと、第五には、近世日新の常識を有つて、實用の
 才と、應用の學がこれに伴ふこと、第六には、進取の氣象を持つて、何
 處までも旺盛の氣力に依り、以て努力と活動との下に國家經濟の開發に
 力むるといふ信念があること、是の六要素の具備して居ます者が、所謂
 眞個の社會的實業家と申しますので、是の條件に一でも缺けて居つては
 完全な實業家とは申されぬかと存じます。(拍手、大喝采)

かく申し來り、述べ終つたところで以て、私が定義を下した意義が那邊
 にあるかといふことは、満場諸君に取つて略々お分りになつたことであ
 らうと思ひます。長談儀は却つてボロの出る虞がムいいますから此の邊で
 切り上げますに當つて、今一應御注意申し上げたいのは、將來の實業
 家を以て任ずる方々、所謂眞個の實業家たる儀表とならん方々は、前述
 の條件を御參考とせられ、常に徳を修め、才を磨くは謂はずとも、努め
 て學を積んで盛んにその實力を發揮し、競ふて努力、活動するといふ点

ムいます。(拍手大喝采)

に心掛け、以て奮闘經營せられたところの事業は、必らずや富力が充溢して、平素鍛へられたる才徳は、進運を旺盛ならしむるものあることを疑はないのでムいます。かくして始めて事業界に立ち、成功の月桂冠を戴かれるのでムいますから、奮闘、努力、精勵等の文字はかへすくも胸に刻んで貰ひたいことを最後に冀つて置く次第でムります。(大喝采)

◎眞個の商賣と我武士道

私は本題に入るに先つて斯様な誤解せられた思想が社會に喧傳せられつゝあるのを耳にしたことから申上げたい。それは何うかと云ひますに「武士道と云ふものは義を重んじ、商賣は利を重んずるものである。そこで、義を先にすると利は自然に犠牲となる、だから、商賣に向つて武士道を用ひよといふのは無理な注文である」云々と、これは大變な間違ひであつて、大方現今でも斯る考を懐いて居る者は尠くはありますまい

私が本題を提げて立つたのは、蓋し是等の人々に向つて其蒙を開きたい考からでございます。然らば如何なる所論であるかと申しますに、眞の商賣といふものは必らず武士道と両立せなければならんといふ趣旨でございます。暫らく私の申す説を御静聽願ひたひ。

先づ第一には昔の町人所謂昔時の商人なるものと今日の商業といふ意義はどれ程差異があるかと申すことでございます。試みに我商人であつていつまでも封建時代に於ける町人根性の品格に安んじて居る者ならば、

之等に今更ら武士道を奨めるの實以て無理の注文でありませう。抑々昔時に於ける武家と町人ほど隔たつた階級はなかつたのでございます。即ち一方が名節を砥ぎ廉耻を重んじ生命にかけても名譽を全ふせんとしたのに引換へて、片一方は唯利のみにはしつて耻を知らず、金錢の爲めには躰面も節義も品位も犠牲にすることを厭はずして、所謂町人根性といふ特別劣等の階級に甘んじて、只管動物的快樂のみに満足して居つた者の多かつた時代で、武士道を商賣に應用することは頗る難事に屬したの

九六
 でございます。ところが、現代の商業はさうではない、封建時代に於ける商業よりも其意味は更に高尚なのでございます。例を引きましたならば、彼のカーネギーは「今日の實業は國家を支持し、文明を作つて人類の幸福を増進するものであるといひ、ソー博士は「靴を造るも、鎗を造るも、其の貴い点に於ては繪畫を描き又は書籍を書くのに異ならず」とさへ云はしめた現代の商業が、如何に高尚の地位に達したかを知ることが出来るでございます。斯かる高尚なる一種の天職に對しては、所謂

九七
 嘘も商賈、利益の爲めに手段とか手段とかの糸瓜も何の皮、かといふ如き昔の商賈思想では、實際施すの餘地は無いのでございます。然り、今日の商人は其品位も名譽も共に最早昔日の町人とは比べものにはならない、其の正當なる努力と奮勵に依つて成功した處の商人は社會の上流に置かれ、社會亦其功を揚げ、其業を稱し、其徳を傳へて、他の階級と同じ以上の名譽を興ふるのに吝かならぬのでございます。ましてや、其商人にして學問があり、經驗があり、且品位、信義共に双び備へた者に

九八
 對しては、最も名譽ある紳士として一段の尊敬を拂ふのに躊躇せないで
 はござりませんか。即ち此の紳士なる者が、往時に於ける武家と對照せ
 らるゝではありませんか。然らだ斯かる高尚の職業であり、斯かる立派
 である人品に對し、之に強ゆるに武士道を以てするのは、誠に相應しい
 ことではありませんか。彼の世界に於ける商業の模範國と稱せらるゝ英
 國、即ち早くより發達したところの英國にあつては、其堅實にして犯す
 ことの出来ない商業の道徳、又は商人間に行はれるといふ制裁は恰も我

國の武士道に似通つたものがあるのでございます。すなはち、彼等は商
 業を以て他の職業と同一視し、最も高尚なる天職と信じ、敢て自分から
 卑下もしないから、從て信義を尙び、驍面を重んじ、たとへ如何なる利
 があらうとも眼前のみには趨らず、商業の徳義に背戻するやうのことは
 斷然として之を爲さぬのでございます。したならば、進歩發達したる商
 人は斯くも立派な志操を行たねばならぬといふことが證明せられるでは
 ありませんか。

一〇〇
 武士道が今日の商人所謂紳士に必要であることは、前述の次第で大凡そお分りになつたでございませう。然らば尙一步を進めて言ひますならば武士道が無視してかゝる商業は絶對的に繁榮せずと、斯様に私は絶叫致しませう、尤も武士道といふものは、最良の政略としては用ゐるものではない、若し利益の爲めに武士道を用ゆる者があつたならば、其は相場に勝たんが爲めに穴守の稻荷さんを信仰すると一般で、武士道の武士道たる所以は全く爰に消失して仕舞ふやうな譯になります。けれども唯單

に商業と道徳との關係に就てのみ之を見ましたなら、商業てふものは常に武士道と両立するのみではなく、今後の文明的商業には、この武士道的精神を基礎とするものでなからんけりや決して繁榮することは出来ないのでございませう。抑々商人に取つて看板といふものは畏らく金錢よりも重いでございませう。だから恰も武士が躰面を重んずるの心で以て自己の看板を護るといふ商人でなくば、堅實の繁榮は得て望むことは出来ないのである。それから、商人に取つて重いのは信用でありませう、この

信用は多分金銭よりも尙數等重いに違ひない。然らば、武士が約束を重んじたるの心を以て其の約束を守るといふ商人でなからんけりや、決して堅實の繁榮は望まれないのでございませう。それから、耻を知つて自から欺かず、又人をも欺かず、節義を守つて人を賣らず又苦しめずといふ精神は、こりや何人にも必要なことではあるが、就中商人に取つては斯の武士的大精神がなかつたならば、如何に眼前にのみ利益があつて一時は繁榮するとも、永久に堅實なる成功は到底望むことは出来ぬのでありませう。

す。とはいふもの、武士道が何處までも商家繁榮の秘訣であるとは申しません。所謂商賣道即ち商賣の方式なるものと、爰に申す武士道とは全然異なつたことを御承知願ひたい。彼の士族の商業といつて維新時代に於ける過渡期に於て、昔の武士が商業に悉く失敗したといふことを以て、武士道を誤解する者もありませんが、これは全然別なもので、つまり士族が失敗したといふことは、取りも直さず商賣の本態たる其方式、所謂専門の技術に屬する心得がなかつたからであつて、武士道を商賣に

應用したるの故ではないのでございませう。私が申しますのは、この商業
 即ち眞個の商賣道と武士道といふものは両々相伴はざるべからざるもの
 であるといふことで、前列舉した如き個條に參考しても、武士道の精神
 を商賣道の基礎とせる商業でなくんば、其の如何に薄弱至極のものであ
 るかッお分りにならう。そこで私は斷言して憚らない。曰く武士道と兩
 立しない商賣は決して堅實なる發達を遂ぐることは出來ないものである
 と。

それでは、武士道を基礎として商賣する商人はどんな資格が要るか、又
 は之れを兩立せしめた人があるであらうかといふことに就て述べませう
 言ふまでもなく武士道の感化力は國民的であるから、日本國民である者
 は其階級の下上に論なく、又職業の如何を問はずして凡そこの武士道の
 感化を蒙らない者とは殆んどありませんまい。昔時に於てたとへて武士か
 ら禽獸視せられた町人でも、多少は其の感化を蒙り流風に浴したの疑
 はれないところで、今これを武士道とは全然關係のない他國人に鼓吹し

たどて些の効能もあるまいが、國民的精神として、商人の血液までも染めてある我國人に向つて之を鼓吹し以て一種の商業道德を形造ることは決して難事ではありません。現に今日の商人中で、既に武士道の感化を蒙り、凜平たる精神を以て商業に従事し、人を益し世を益し、而して己れを益したといふ成功者は少くないのであります。手近い處で申しますれば、彼の有名なる貿易商人森村市左衛門氏の如きは、誠に比類稀なる活證據であります。當に士魂商才の人たるのみならず、其事業を爲す

迹が何處までも武士道で以て自らを律するの人でございませぬ。即ち自己の信用を重んじ廉耻を重んじ、國を愛ひ世を愛するの心があつて、しかも事業に對しては献身的奮闘を爲すと雖も、また獨り自らを利せんが爲めのみではありません、斯くの如く武士道と兩立したること、恰も私が申す通りの注文に當て候まつたやうな話ではございませぬが、それで以て今も氏の事業といふものは益々繁り榮へて何處まで富み茂るか果てしの分らぬところを見ますと、所謂武士道と眞の商賈道といふものは兩立

して益々繁昌するに相違ないと云ふことがお分りになつたでございませう。大分お話が長くなりましたから、こゝら遡りて止めにして結末をつけまするに臨み今一言申して御免を蒙りませうそは武士道といつても死道ではない、何處までも活道であるといふことでござります。言ふまでもなく道徳の形骸は時代と共に變遷するものであつて、武士道そのものは封建制度の産物ではあるが、其精神に至つては、今尚は磅礴として我國民性の最美なる一部を形成して居るのでございませう。世の中には武士

道も維新當時の大變革と共に最早死んだものであると云ふ輩がありますけれども、武士道の精神は決して死んだものではございませぬ。封建政治は既に亡びましても歴史は永遠不朽でございませう、而して我歴史の最も光彩を放つて居る部分は武士道の活躍であります。そうして歴史其の物は國民を教育し、感化もし、更に進んでは其の性格をも鑄造するものでございませう。したならば今日此点に於て武士道てふものは決して死道でなくて、歴史そのものが赫灸として光を放つ間は立派な活道なのであり

一〇
 ます。唯之を今後の社會に活用する必要上、昔の武士道なるものに、更らに勤勉、力行、節儉等時代要求的新装を着用せしめたならば、殆んど申分のない完全のものとなるでございませう。

◎海陸軍の風紀に就て

由來陸海軍は社會と懸隔して恰も別世界の如きかの歡がありまして、餘り世人の注意を惹かないやうでムいしますが、これは大變な不了簡であ

つて、國民と直接の關係があり、しかも國民皆兵の現制度に於て、將た國家鎮護の干城たるに於て、之を疎絶にすることは出来ないので、常に及ぶべきだけの注意と監督をせなければならぬのです。今茲に申すのも最近社會の一問題となり且つは新聞紙などにも種々喧傳せられたる材料によつて、聊か一言を試みる次第であります。

大体軍人風紀の問題は各國古今の歴史に徴しても、凡そ大戦役の終りに於て最も憂慮すべきものがありますのは、今更ら喋々するまでもムい

一三三
 ません。ところが我國は如何でございませうか、彼の日露の大戦が終局を告げました時、軍人間の風紀は例に依りて漸く弛廢せんとするかの徴候がなきにしも非ずでございましたが、これは幸ひ當局者が早くから此の点に就て豫想したものと見え、爾來嚴かに戒飭を加ふる一方には、若し身持の宜しからん軍人に對しては、容赦なくドシ／＼と處分を施しましたから、左までの缺點をあらはさずして済んだので、吾人國民は蔭ながら満足して居たところでございます。ところが、爰に一つの弊害といふのは、

所謂昔時の遺風たる下級者酷遇則ち虐待するの風が今尙全くの跡を絶たないことでありまして、これ許りは實に遺憾千萬の蠻風かと存じます。諸君は記憶するならん、各地電報の間々報道する新聞記事に上官が兵卒を拷問したとか、又は虐待した結果遂に自殺を遂げしめた等のことが、往々散見せらるゝことを、勿論軍隊内の出來事は社會普通のことゝは同一に見ることは出來ないもので、種々雑多の方面から徵集したところの男子を教育訓練して、兎も角も一人前の兵士に仕立て上げるのでございませう。

すから、到底尋常一様の業ではなく、又容易のことではなくて上官の骨折もさぞこそと推察せられるのでムいいます。のみならず、其兵士といふ者の多数までは下等社會のものであつて、普通教育の素養も充分でなく或は全く無學文盲の者さへあつて、殊には入營前から厭ふ可き惡癖に感染したのも少くはないのでムいいますから、尋常平凡の方法で以ては、逆も教育訓練の効果を充分に收むることは出來ないので、勢ひ他の社會では見ることを得ざる嚴重處分を施す必要もあるのでムいいます。けれど

も、さりどて是等の兵士は他の外國にありますやうな傭兵の類ではムい
ません、苟くも國民の義務として他の同胞を代表し、自家の産業を抛つ
てまでも兵役に服した上、若し一旦の異變があつたならば、甘んじて國
事に殉せんとする人々であるから、其教育訓練の任に當る人も深く兵士
の境遇に同情して濫りに酷待するが如きこと呉々もない様自から注意し
て然りでありませう。が、ごうしたものか、間々各地で以て拷問沙汰が
あるのは實に不都合千萬の次第でございまして、これは一應も二應も其

筋否な各種團體長をして直接取締の任に當るべき上長官の熟慮を望まねばならぬのでございます。それから陸軍では珍らしいが、海軍でよくあるところの軍艦と軍艦の乗組水兵が、一大團體をつくつて喧嘩することでございます。しかも最近のことであつて、我國第一の軍港たる横須賀で此の種の大騒動があつたのは、諸君も耳底に残つて居るでせう。これ等の如き他の小港とか又は邊陲の地方にでも起つたことであつたならば兎も角ですが、横須賀のやうな我國第一の鎮守府所在地で以て、區々一

二艦水兵の風紀を取締ることが出来ずして、斯かる騒擾を惹き起したなどは、實に怪訝至極に堪へないではありませんか。もとく壯年客氣にはやる水兵同士が往々衝突を起すのは珍らしからんことではございますが今度のやうな騒ぎは決して我海軍そのもの、面目を全ふする点に於て万金の策とは云はれぬのである。つゞまるどころ平和が少し續くと、軍人の風紀も往々嚴肅を缺き、種々の弊風を生ずるのは何れの國でも屢々經驗する所であるから、此際局に當る有司たるものは、常に警戒する上

にも尙一層の警戒を加へ、所謂微を積み細を戒むる底の心掛が大肝要
でありませう。



◎大に發明を獎勵せよ及び其の方法

發明獎勵の事は、現に行はれて居りまする特許法とか意匠法とか、若

くは實用新案法と云ふやうな極く僅かのことで以て、重大且つ神聖なる
べき發明權を保護するには餘りに簡單で、其目的を達する事の出来ない
のは勿論、斯かる法律上の手段では到底其功勞に酬ゆる由もないから、
此際國費とか又は世間篤志家の補助に依つて發明家の研究を容易ならし
め、且つ相當の設備をなし以て發明家の名譽を表彰するの道を講ずるな
ご、兎に角直接此の種の發明家を表彰し、獎勵の方法を講ずるのは甚だ
必要のことではありませんまいか、私が爰に演べんとするところも、亦こ

れに外ならんのであつて、我國の現下にとつては頗る必要のことであらうと存じます。

一一〇

勿論我國にも叙位授勳等相當の方法を以て發明家の名譽を表彰するの道はないこともありませんが、從來の例に徴しますると、其叙授する所の等位が頗る低いものでムいまして、丁度毎年見るやうな老朽の政府一小官吏に與ふるものと同一のものであつて、此点のみに就ても政府は當然其責に於て、賞を吝むといふ誹を免れることは出來ないのであります。

したならば此際固陋の慣例を一變して大々的賞を厚くして、以て大に獎勵するの新例を開くと同時に専ら發明發見家の名譽を表彰するため、特別の勳章を制定するなど最も時宜に適した手段ではありますまいか。それから、國費とか又は篤志家の補助に依つて發明家の研究を容易ならしむるといふ工風は肝腎は肝腎でムいますが、その方法手段に就てはもとく一様に極つたものではありません。先づ英國の例を見ますると同國では特許局に附屬した博物館がありまして、一切の發明品は總て此處

一一一

に陳列される、又附屬の圖書館があつて、特許に關するところの一切の公文書、又英國を始め殆んど全世界に渉る古今特許品の明細書とか或ひは内外刊行の書籍雜誌を所藏し、之を公開して何人でも自由に出入閱覽せしむる等の設備は、發明奨励法として最も其要を得たものであります、發明に志す人に取つては研究資料とするところ少々ではないが、そればかりでなく、國費とか又は富豪の奮發で以て大規模の研究施設が設立されて、實費又は無數で、發明家の意に任せて其機械を使用せしむると

か、又は必要なる材料を供給し、或ひは依頼に應じて既成發明品もしくは未成發明品の試験を行ふなど、苟くも發明家に取て、其研究を容易にし、其事業の成就を速かならしむるの設備は、奨励法として最も有効のものではないませんか。それから序でに、諸種の發明品であつて若し不完全だとか又は不實用とかの点に依て特許権を得ることの出来ないものを買収して斯かる研究所の研究に附せしめて適當の改良を加へ、以て其發明を完全にするが如き

も更らに妙といつてよろしいでございませう。この外種々の方法も考案せば、考案せられないこともありませんが、こゝで一つ例を引ってお話してみませう。それは外でもありませんが、現時世界屈指と數へられて居る大電機工場といはれる米國はピツ、パークのウエスティングハウス工場で、其創業者たるゼヨージ、ウエスティングハウスの成功譚でございます。

抑々氏が爰に至つた徑路といふものは、始め世間の自稱發明家と稱する

輩が、自分の發明を工業家に賣らうとするけれども、其趣向如何に奇抜なといつたところで、實際の利用に適應しないと拒絶せらるゝ者が澤山あるのを見て、コイツ一つ片端から買収し、以て専門家の手を煩はし、其上で適當の改良を施したならば、中には完全の發明を成し遂げられぬこともあるまいと考へ付き、さてこそ盛んにかゝる發明の買収を遣り出した中に、當時ニコラ、テストラといつて電氣に關する發明をしたといふ男が、諸方の工業家を持廻つて其發明を賣附けんとして居ましたけ

二二六
 れども何んなものか誰とて寄せ附ける者さへなく、唯一笑に附して願ひ
 なかつたのに、彼のウエステイニング、ハウス氏は委細構はず之を買収し
 て早速自分の試験委員に命じ、いろく改良工風を加へさせたのが、
 遂に今日の大々的工場を爲すに至つたといふことであります。したなら
 ば、つまるところ最初の發明者たるニコラ、テスラの工風が多少の改良
 を施したるにもせよ、豫想以上の美果を收めたといふものでは無いませ
 んか。思ふに世上幾多の發明にして恰も斯の如き成功は必らず無いとは

二二七
 云へんので、此際益々研究所の必要があるでは無いませんか。
 とはいへ、我國の發明數は西洋諸國に比べたならば、物の數にも足らぬ
 程のことであつて、自分ながら慙然の至りであるから。今俄かに斯かる
 費用を支出するの要を認めないといふ人があるでせうけれど、元來が我
 國人の天性、必らずしも發明心に乏しいのではございません。若しか獎
 勵方法其當を得たならば、將來は屹度發明品が増加する、増加せばする
 程後の發明を誘起する機會が繁くなるから益々發達頻繁となるは吾人が

◎夏期休暇の利用及廢止説

近來各學校に於ける夏季休業の餘りの長いといふので、全然之を廢止するか、又は期間を短縮するか、若し又諸種の点から見て休業を續けるのが利益としても、其利用方法を今一層顯著たらしむべしといふ議論爰に保證するのに躊躇せない所でございます。

が、社會の一部に起りまして、また各方面の注意が周密になつたのは、疑はれない事實でございます。そこで私は絶對廢止可なりや、若しくは短縮可なりやに就て未だ確たる抱負を持ちませず、従つて之を發表することも六ヶ敷いのでございますが、兎も角何れにしたところで一利あれば一害ありといつた風で、處決は六ヶ敷いのでございます、依て茲には單に利が一説として、其利用方法を廢止説の可なる長所とを列擧して、以て諸君の御参考に供すること、致しませう。

先づ第一は、休暇利用策を今少し現實ならしむるといふ点に就て、其利用が如何に行はるゝかを解剖しますのは、全体に於て之を三大別するところが出来るのでございます。即ち父兄とか母姉の膝下にあつて其家業を援助しつゝ、平生缺けたのを補習し若くは平素學窓で以て學んだ所を實際に應用し、以て其智識に經驗と熟練とを加ふる手段に出づるといふのが其一であります。が、これは從來既に有り觸れたものであつて、今更ら取り出でゝいふまでもないことなのでございます。

それから次ぎは、現今盛んに行はれて居るところの旅行、即ち各學校の議員、生徒が一團となつて滿韓視察の爲めに赴くとか、動植物の採集に赴くとか、又は商業學校生徒が行商的の實驗、或ひは採鑛冶金もしくは工業に關する高等學生が、鑛山工場等に就き、實地の經驗に資するといふやうに、つまり旅行的實驗によつて、其智識、經驗を加へ、以て應用の實際的材能を啓發し來るものが其の二でございます。それから、一定の場所に會合して特に必要な教師を招聘し、以て學術技藝につき新たな

る開發を受けるとか、補習的修養の道に出づるとかいふのが其の三であります。が、これに屬する範圍はなかくに廣く、其種類もまた多から、一々こゝに擧げることには出来ませんが、大体をいつたならば、宗教方面では、基督教の夏季學校開始、佛敎の講話或は參禪などで、教育方面では、府縣郡教育會が主となつて、小學敎員の爲め、文部省又は個人に於て中等教育の爲め、夫れく講習會を開くなどであつて、一般女子社會にあつては、各學校敎員及び子妹の休業せる機會に乘じ、家政と

か育兒、割烹或ひは裁縫、造花、音樂、繪畫など、いろいろの講習を開くといふ傾向が益盛んになるなどで、大凡そ是等のことが主であらうで、尙其の上に現政府が獎勵して居る勤儉に就き、これを主とせる講習會、又、新聞社もしくは篤志家の計畫にかゝる講演會なども、夏季休業とは關聯せないけれど、亦此の機會を利用し加へたところで、不可はないであらうと信するのであります。而してこれ等條項中、旅行的私用と講習會の利用とは、何れも相當の費用が要るから、今にはかに擴張する

一三四

ことは、逆も望まれないであらうが、現今の如く、三十日から九十日の長日月間、僅か一週間乃至二週間に過ぎない講習會など、其利用するといふ点に於て、未だく到つたものとはいはれないのみならず、其講習科目に、園藝、農業、林業、水産業などに關するものは、殆んど無いと云つて差支へないのは、或ひは其實際の必需と相反應するものもあるであらうが、是れ等の科目は近世社會の趨向に照し、更に、此方面に發展擴張するの必要があるので、いふまでもない。

それから第二は、全然休暇廢止の方面で、いふまでもない。これは實例を引いて申しますと、大阪府立職工學校が今回斷然これを實行するに決したことで、いふまでもなく、同校の目的といふものは、學校と工場とを殆んど同一状態に置き、以て其生徒が職工の位置に立つて學習研究され、以て實際働きのあるところの優良なる工手を養成するのにあるから、平生學校と工場とを區別せず、其間に何等の扞格なからしむる必要上、この處置に出でたもので、休暇廢止の第一先鞭たる名譽を荷はうとするのみで

一三五

はなく、また其職員生徒が勇断を稱せねばなりません。これで以て見ますると、單に學校と實際との連絡を更に近密ならしむるといふ点につき其必要あるもの何ぞ職工學校のみでありませう。彼の各地方に見まする農學校の如き、殊にこの例を學ぶ必要があります。一体農學校その物に學ぶ所が、直ちに實際に應用し、以て學びし卒業生が地方農業の改良進歩に資する先導者となることが出来ずして、單に姑息なる地方の小役人で以て甘んじ、其の卵と化し去るが如きは、今日に於ける滔々たる惡弊

でムりまして、かくの如きは速に矯正せねばならんところの急務かと存じます。要するに、世上一般が夏季休業につき深大なる注意を加へると共に、其利用法が着々講せられるのは甚だ喜ぶべきことといはねばなりません。斯く述べました各項は單に現行はれる實例に過ぎませんで、私の意見としては甚だ尠いやの感じもありませんが、これは一に諸君の諒察を仰ぎたいところで、御免を蒙りませう。

◎内債と外債の關係

一三八

近頃各種事業費の調達方として、頻りに公私債の募集がある。で、外債も内債も要するに借金といふことには差異なく、強ち外債だから外國の金が國內に這入るといつて喜ぶ譯には參りません。つまり外債の恐ろしいことは、猶内債の恐ろしいのと違はんのでござります。つまり、まづこのころは、其使用の途及び方法の如何にあつて、負債其物は固有するものではありませぬ。

で、募債その物が、不急の事業に放下するに至つては内債とてまた寒心すべき弊害が伴ふもので、其結果は同じく一般財界を攪亂するに至るものでござります。世間には外債の害を以て、之に伴へる利子支拂のため途には一國の正貨を驅逐し、一國の兌換制度に動搖を來たすものだと思つてをるものもあります。けれど、正貨の驅逐てふことは、單に外債の利子支拂ひのみに依るものではありません。内債だとして、其濫起するのを戒めなかつたなら、要するところ同一の弊に陥るものでござります。

一三九

一四〇
 若し、不急の事業が頻りに經營せられ、以て一國資金の秩序を攪亂し、従つては貿易界が亦順調を失ふといふ點に會したならば、其負債の利子は盡く内國に落つるのは落ちるけれど、畢竟は正貨を國外に輸出することないとはいへないので、負債そのものは唯々其用途如何を戒しむるにあつて、また國の内債によつて差別は設けられぬのでございませう。近頃世界經濟界が漸次回復の兆があると共に、我國に於ける外債成立の端が漸くひらけまして、四十一年六月以降からの外債のみで、約一億一

千六百萬圓にも達したのであります。といふのも、一度外債募集の機運が熟したと見てとつて、公私の諸団体が争ひて資金をこゝに需めんとするの勢ひを呈した結果に外ならぬのでございませう。そこで以て政府は大に狼狽し、遂に内訓を地方廳に與へ、以て外債の危険を警めましたと同時に、今後は嚴に其取締を勵行するといふ意思を示すやうになつたのであります。

ところで、目下地方の外債を要するといふは、強ち不急の事業を起すた

一四二
 めではなくて、多くは舊來の高利公債を借替へんと欲したのでございませう。勿論、高利の内債を有するのと、低利の外債を用ふるとは、たとひ其の間外債の利子として正貨を國外に驅逐する傾向があつたとしても、國民の利益といふ点からしては、寧ろ低利なる外債を有して居るのに優つたことはないのであります。だのにも拘らず、今にはかに政府が之を阻止せんとする方針を採つたのは、つまり外債の二字に拘泥したところの杞憂に外ならぬのではありませうか。若しも外債といふものが、果

一四三
 して斯くも恐ろしいものごしましたならば、地方債の募集のみではない。總て生産的事業會社に對しても、亦同様の筆法を執らねばならぬではありませんか。斯くの如く杞憂して以て、國家といふものは能く其生存の本義を全ふせられるでせうか。それで、外債が斯く募集せられるといふのも、つまりは内國經濟界が之を必要とするの缺陷あるが爲めに外ならぬので、外債を以て内國財界の缺漏を補はんとするため、自然的趨勢に出でたものでございませう。

一四四
 の缺陷が匡正せられない限りは、どんな術を施し、如何なる策を講じた
 とて、外債は必らず自然に成立するでございませう。然らば其缺陷と申
 すはどんなことでありますか、すなはち内地金利の餘りに高いことなの
 でございます。抑々世界の金利が自然に平均しやうとしてをるのは疑は
 れない事實でございまして、金利の高い處に資金が流入するといふのは
 避け難い勢ひではありますまいか。だから、資金が流入することが、或
 る程度に達し、適當に金利の低落を見たらば、世間とていつまでも外

資を煩はすにも及ばず、外資も亦自然に其流入が止まるでございませう。
 つまるところ、外資は入るべき勢ひに入つて、止まるべき勢ひに止ま
 るのでございませう。

でござりますから、四十二年の初め頃、我國に於ける一割以上の金利と
 英國倫敦における三米内外の利率に較べましたなら、資金が自然我國へ
 流入して、其金利を低下せしめるといふのも、決して怪しむべきことで
 はありません。今日の外債は必竟此金利の大差違を均一にせんとするも

一四六
 のであつて、現に其の初め外債の利子が約六七朱の利廻に當つて居たものが、それからといふものは内地市場の金融が漸次緩漫の状態に移りますると共に、ほゞ之と同一の利廻で以て募債し得るに至つたではありませんか。かくなりまるといふと、遂には外債の面倒なるを避け皆内債の方針を執るに至つたので、これも自然の勢ひが然らしめたので、之を以ても到底人事で如何ともすることが出来ないではございませんか。要するに、外債の由つて來るといふ所は、必竟其財界の幼稚であるとか

一四七
 又は秩序が整頓せられてない現象であつて、外債はつまり之等を救済する一手段に外ならぬもので、又其流入にも自然的限度があるのを見られるではございませんか。であるから、外債を恐れて其輸入を禁遏せねばならぬとしたなら、勢ひ其財界を整理して金利を世界的とせねばならぬので、つまりは金利の低落が其本であつて、外債の禁遏といふのは其末でございませぬ。故に唯々其末のみを趁ふて其本に還らなかつたなら、如何に禁遏法を講じ、百方策略を運らしたとて、遂には徒勞となるでござ

いませう。私は此れ等内外債の關係でふものが、唯々自然の救済法によつて、我財界を利するといふの、大々的必要なることを述べたのに過ぎ

◎修身教育と司法處分の關係

この間文部省で開かれた全國の中學校長會議で、第一に諮問せられたのは、修身教育をいま一層有効ならしむ工夫如何と、修身科の一部とし

て特に作法科實習を課するの可否でありまして、其の他五六問ありましたけれども、左程の重要事でもなく、兎も角諮問の主題は此の修身教育であつたかのやうでムいます。

抑々、當今世道人心の頹廢して居るといふことは、當局者のみではない一般識者の憂慮もし、且つは如何にせば、此の頹風をとりかへして日本固有の美德を維持するかに腐心して居るのでムいます。で、文部省の當局が第二の國民たるべき此の中學生徒に一層有効の修身教育を施さうと

一五〇
 するものも無理からんことではムいしますが、全体修身教育なるもの、難事は獨り日本のみでない。今は全世界を掩ふて此の難關に遭逢したのであります。

歐米の基督教國では、まだ習慣として宗教を修身教育の骨髓としまして學校の内外に拘らず宗教で以て修身の根本として居りますけれど、これはホンの形骸に過ぎないやうでムいします。宗教といふものは、人文の進歩に反比例して、追々と其光を失ふものであります。現に我國でも宗教

は一時國民大部分の道德思想を養つたものであります。明治となつてからは、其の以前に生れた者ならいざ知らず、其の後の者で此の感化を受けたのは少いのでムいします。又儒教なるものは、封建時代では最大の道德教育でありましたが、封建制度の打破は、歐米文化の進入と共に、儒教の本源である漢學に大動搖が來て、遂には折角の修身教育も大變薄弱となつたのであります。で、其後今日に至るまで、儒教は修身教育の根柢は爲して居りますが、其の教授と形式に於ては大に舊時と異つたもの

一五二
 があるのでムいます。だから、強いて現今唯一の修身基礎を求めたならば、彼の教育勅語こそ誠に其真髓を爲して居るのでムいます。それで、この一篇の勅語といふは、どんな性質であるかと、畏れ多いことながらひそかに揣摩し奉つたならば、つまり舊時の儒佛を一丸として、新日本宗を開拓し、以て忠孝仁義を教へた、唯一の寶典なのでムいます。それで、従來の儒佛のやうな管々しいものでなく、教語も少くても要を得て居るから、これで十分でありさうなものだが、社會の複雑におもむくと

人心の多様になると同時に、尙其の上何等かを要望するものゝやうでムいます。ところで、歐米の倫理書は何うも我國には向かず、といふのも東洋と西洋との社會組織がその基礎に於て既に異り、家庭の倫常もまた根本からして異つて居るのであるから、無理もないのが、それで以て、科學は東西を通じて一貫し、道德さへ時には人を迷はしむるものがあるかと思へば、法律と道德が一致せなかつたりなどする、これは道德が未だ進まんのか、法律が未だ進まんのか、或ひは到底一致せないのか、兎

に角迷ひ來れば修身教育のこと、甚だ困難のものがあるではありませんか。ところで、中學に於ては生徒の智識も少しは増して來たところへ、其の先生が必らず聖人でない以上、時には倫理教科書を繕きながら其の字句を講義したとて、感化といふは極めて薄いものである。よし、小學から中學で以て修身教化を十分にしたとしても、其の家庭と社會は何うであるか。時に學校で教はり、多少感動したことも學校外の實物教授で、悉皆之等を破壊し去るではいりませんか。そこで以て、私の希望が

あるのです。他ならず、學校に於ける修身教育の一助として、社會では司法處分を嚴重にして貰ひたいのであります。例の夫子が述べられますやうな語ではありますが、一つ爰に引證します。曰く、之を道くに政を以てし、之を齊しうするに刑を以てせば、民免れて耻るなし、之を道くに徳を以てし、之を齊しうするに禮を以てせば、耻るありて且格る、とあります。けれども、實際に政治と道學論とは大に異つて居るものがあります。つまり孔子様が迂だといつて、今

の時に容れられないのも強ち以のなきことではありません。ところで
 歐米は何うかと観ますれば、社會道徳が大層進歩して居ります。これは
 その基く所といふは法律なのでムいます。全体此の法律は刑名を規定し
 たもので、道學者先生は甚だ嫌はれますけれど、社會組織が今日のやう
 に複雑となり、子弟の關係といふが舊時の如からず、従つて道徳標準を
 示すことが出来ない。昔は學問といふも殆んど修身の一科であつたのが
 今日では一週一回位倫理の講義があるに過ぎず、教師自身もまた多面

多様であります以上は、修身教育が舊時のやうな効果を收めないとい
 ふことも當り前です。といつて放つて置くわけにも往かないので
 文部當局が中學修身教育に腐心するのも尤な次第でムります。で、私が
 前述致しました如く、これ等學生の教育資料にせんため、遺憾ではある
 が學校外で以て一般人民に向ひ、嚴重なる司法處分を行ひ、以て學生に
 對する實物教育としたならば、兩々の關係も圓滑を極め、學生の社會道
 徳も亦一層の培養が出来たらうと存じます。

新演説

◎新時代の成功三信條

法學博士 天野爲之

私が今日諸君に御記憶を願ひたいと思ふ所の一つの事は、「敬」と云ふ文字である、此敬の字を漢學者に聞くと苟もすると云ふ扁に打と云ふ作り、即ち苟くもすれば打つと云ふことである、苟且に取扱つてはならぬ極く叮嚀に取扱かへ、若し苟且に取扱ひ、叮嚀に取扱かはなければ、鞭

新演説

を以て打つと云ふのが即ち此敬と云ふ字である、此敬と云ふことは之を言更ゆれば即ち敬う、物を尊敬すると云ふことであるが此敬の字を諸君が絶えず記憶して、且つ絶えず實行することを諸君に希望したい所である。

敬と云ふことは何事に就ても必要であります、私は殊に諸君に向つて此敬と云ふ事を施す三つの場合を述べて見やうと思ふ。

- 第一は事に臨んで事を敬へ、
- 第二に人を敬へ、
- 第三には己れを敬へ、

此三つの場合に於て敬と云ふ事を行なうことが出来れば、如何なる事業と雖も必ず成功するに極つて居る、然るに是は中々言ふべくして行はれないものであるから先づ十中の八九までは失敗して、成功した人は誠に稀なのである。テ事に臨んで事を敬するふ云ふことは、どう云ふことかと云ふと、諸君が是から先きに實業社會に出る、其時に於ては、色々な仕事に自分が従事せねばならぬ、又學校にあつては學校の學問に従事せねばならぬ、學校にある間は學問と云ふことが諸君の職分、社會に出る

ならばソレ々種々雑多の職業がある、此職業に出會つた時、其職業を尊敬すると云ふことが必要である、此職業の中でも普通の俗人の眼から見ても尊敬すべき職業もあり、又卑しむべき職業も随分ある、例へば同じ職業であつても、銀行の頭取、或は會社の専務取締役、又は重役と云ふものは必ず社會に敬はれる、處が同じ會社に出て居ても、給仕とか或は小使、職工などは、餘り社會に尊敬されて居らない、或は其他の青物を擔いで賣歩く八百屋だとか、魚を擔つて賣歩く魚屋だとか云ふものは、

世間が尊敬せず、仕事其物をも矢張尊敬しないのである。けれども諸君が社會に出るには、高きに登るには卑きよりせなければならぬ成程世間の目から見れば、帳面を註けるとか、又は手紙を書くとか、算盤をはじくとか、甚だしいのは掃除するとか、一局部の仕事をするのは誠に詰らなく感ずる、誰しも一躍重役の位地にも座つて人を自由に使つて見たいことは望むところであるが、其詰らぬ事から仕上げて行かなければ物事は成功しないのである、即ち其仕事に對して尊敬の心を起さなければ

ならぬ、苟も仕事に従事した以上、如何なる仕事でも其仕事に貴賤の區別のある筈はない、總て仕事は、社會に向つて有用なものである、若し其仕事をする者がなかつたならば社會はどの位困難するか知れない、例へば車を挽く者は賤しむべき職業のやうであるが、若し此車を挽く者がなかつたならば、世間の人は何の位不便を感ずるであらう、職工は賤しいと云つても、此職工なるものがなかつたなら、矢張大なる苦しみと不便を感ずるのである、其等の點を考へたならば、皆此等の者も社會に對

一六四
 して盡力をして居る、其盡力の結果が國を益々文明に進め富を増して行くのである、其れ故職業に決して貴賤尊卑はない。人に依て金を餘計取る職業と、少くなく取る職業とあるが、併し多く取るのは其職業をする者が少ないからである、少なければ勢ひ金も餘計出す、算盤をはぢく者、帳合をする者が、一年に壹萬も貳萬もあるから、従つて給料も安いけれども、是が年に十人位しか出ないと云ふやうなことであつたならば八方から雇れる、又其給料も非常に高くなつて、何萬と云ふ給金を取ること

が出来るのである。又今日會社の重役など、云ふものは、莫大な金を取つて居るが、若し其等の人が非常に澤山あれば、給料はドン／＼下つて行く。
 現に高等なる學校を卒業した人、例へば帝國大學なり其他の大學を卒業した人、是が今では大變な人数である、帝國大學なり、或は高等商業なり、高等工業なり、其他私立の種々な學校がある、其學校から毎年出る人は幾らもあるから、其給料が段々下つて行く、例へば帝國大學から

一六五

言つて見ると、私も二十四五年前に帝國大學を出たのですが、其時分に
 した所で矢張どんな低い者でも四拾圓や五拾圓の給金を取つて居つたの
 である、それが今では却々むづかしい、雇はれる所がなくて困つて居る
 者が幾らもある、仕方がないから薄給に甘するやうになる、現に或る會
 社では帝國大學を出た人で日給五拾錢で使はれて居る者がある、政府に
 買收されない前の日本鐵道會社に學士で日給五拾錢で働いて居つた者が
 ある、又古河鑛山にも學士で四拾錢か五十錢で働いて居つた者がある其

他卒業しても困つて居る者が幾らもある。
 それは何故かと云ふに、學問の効能がない譯ぢやない、立派な學問は
 あるが、只人が多過る爲に勢ひ安くなつて來る、それ故今の所で比較的
 餘計な収入を得て居るのは醫者である今では醫者が非常に足らぬ、即ち
 醫者になる人數が少ない爲である、各醫學校から毎年卒業する者は千人
 位しかない、日本は毎年人口が七十萬人位づゝ増加して行くのに、醫者
 は僅に千人位しか出ない、それを全國に振撒かなければならぬ故田舎な

一六八
 ごとでは名醫に見て貰うことは中々出来ない、東京でも一人の醫者を呼ぶ
 にも却々面倒で、其上に又澤山の報酬を出さなければならぬ、それはナ
 ゼかと云ふと、醫者仲間で醫學校をドシ／＼立て、醫者を作ると云ふこ
 とをしない、外の法律とか政治とか云ふものは、其れを教ゆる學校がド
 シ／＼出来て、澤山の法律學生なり、政治學生が出来るからして數が多
 くなる、従つて給金が少なくなる、醫者は伶俐だから學校などを作らな
 い、だから人數が少ない爲めに給料も餘計取れる、多くあるものは安く

一六九
 少ないものは高いと云ふのは免れない話である。
 けれども、それが爲めに其人、其業に貴賤が別れる譯はないのです、
 職業が尊卑を作る所の原因でも何でもない、其職業に従事して居る者は
 同じやうに立派な日本の國民である、總理大臣も車夫も皆同じ立派な國
 民である、只悪事をする者は是は別で、最も悪むべきものであるが、善
 良なる心をもつて職業に従事して居る以上は何れも同じことであつて、
 決して其間に尊卑貴賤のあるべき筈はないのである。

諸君は是から先き如何なる職業に従事せらるゝにしても、一度職業に就いたならば、全力を注いで其職業に従事すると云ふことにならなければならぬ、即ち其職業を尊敬する。例へば昔秀吉が或る武士の召仕になつた時に、草履取をさせられた、即ち草履を持つて供をしなければならぬと云ふ場合もあつた、或は又他の武士の身体を揉む、則ち按腹揉療治をしると云つて命せられた場合もあつた、其時に秀吉はごうしたかと云ふと、後に天下を併呑する位の豪傑であるに依て、必らず其時から偉い

人物であつたに違ひない、其時草履取や揉療治などはやらぬと言つて拒絶したか、又は拒絶しないまでも厭やくやつたかと云ふと決してさうではない、草履取をした場合でも、主人の草履を自分の懐ころへ入れて主人の足に冷たくないやうに肌で温めて、さうして主人に履かせたとか云ふ美談もある、是等は即ち事に臨んで苟くもしないのである、秀吉の如き豪傑であつて、草履取と云ふ俗眼から見ると最も賤しきことをさせられても、尙且つ其事に全力を注いで従事した、それが即ち成功の原因

である、それが爲めに松下某にも信用され、信長にも信用され、段々出世して一城の主となり、一國の主となり、終に天下の全權を握るやうな
 ことになつたのである、其故事に臨んでは何處までも仕事は尊ぶべきも
 のである、スルと呼吸も分つて来るし、又愉快でもある。若し是が反對
 に、事に臨んで輕蔑の念を以て、厭々之をしようと云ふことであつたなら
 ば、其仕事は決して宜くは出来ないのである、社會に利益がない、のみ
 ならず自分の損になる、だからやらないのならば初めからやらぬが宜い

仕事に従事した以上は何所迄も尊敬の念を以てやるのが必要である、丁
 度獅子の兎を打つに全力を盡すが如く、又畫工が畫を描くに、チヨツト
 した疎畫を描くだけでも全力を注がなければならぬのと同じことである、
 夫れ故綿密の畫を描くのも、疎畫を描くのも精神の入れ方は同じや
 うなものでなければならぬ。
 諸君が社會に出て仕事に従事した時に於ても、其仕事の性質は如何な
 るものであらうとも、必ず全力を以て従事する秀吉が草履取になつて

主人の草履を懐の中に入れたと云ふことを考へたならば、即ち帳面を註け、或は手紙を書き、又は勘定をすると云ふことの如きは、決して輕蔑すべきものでない、誠に尊敬すべきことになつて来る。

テ先づ諸君が學校に在つても矢張同じことである、學校にある間は學問を學ぶこと、卒業すると云ふことは諸君の職業其中に種々な科目がある、其科目の中には是は詰らぬと云つてそれを宜い加減にして置てはいけない、先づ文章を書く時であれば眞面目に文章を書かなければならぬ、

又英文を作ると云ふ時には、尊敬の念を以て作る、例へば他の人が一度書いて出すのを自分は二度も三度も訂正して出すと云ふやうに、幾らかづ、他の人より考へて眞面目にやれば、結果の上に非常なる差が生じて来る、であるに依て、第一に諸君に注意したいと思ふことは、事を敬すると云ふことである。

それから第二には人を敬すると云ふことである、此事は諸君はまだ若いからして、左程感じまいが、段々年を経つて來ると此人を敬すること

一七六
 の必要が分つて来る、諸君が學校を卒業すれば、必ず商店なり會社なり
 へ行く、さうすれば同僚や上役と云ふものがあるに相違ない、其時に則
 ち人を尊敬すると云ふことが極く必要である、それはどうして尊敬する
 かと云ふと、其人の長所を見るのが肝要である、デ仲間同志で交際す
 る場合に於ても、其人の長所を見ると云ふことが極めて必要である、例
 へば諸君が此學校を卒業して、或る會社に入る、さうすると會社に於て
 諸君を使ふ所の人には昔流の學問も何もしない所の人である、さうすると

諸君が第一に其人に向つて輕蔑の念を生ずる、彼の人間は天保時代であ
 る、彼れは弘化何年に生れたものである、文章も書けなければ何にも知
 らないものである、頭は散髪だけれども、腹の中は丁髷である、表面は
 前掛を掛けて居るが腹の中では行燈をつけて居る、それが自分の上に居
 つて種々やるが、斯う云ふものは決して尊敬すべきものでない、輕蔑の
 念が生ずる、それで命令を聴かぬ、始終不平が起る、此の如き者に使は
 れて居ては自分の才能を現はすことが出来ぬと云ふので、不平の念が起

つて来る、或は自分の仲間同志の有様を見ると、其中には此人は正直であるとか、此人は放蕩をするとか、此人は他人のことを悪く言ふとか、種々友達の悪いことが自分の頭に浮んで、此人々々を輕蔑すると云ふことになつて来る。

で人間は決して完全なものはない、誰しも缺點がある、如何なる人とも缺點のない者はないのであります。其缺點を始終見ると、どんなものでも輕蔑すべき譯になつて来るのである。天二物を與へずで、如何な

る人でも皆缺點がある、例へば勇氣のある人は、活潑ではあるが、動もすれば謹慎を缺いて無鐵砲なことをする、又沈着なる人は誠に用心深く事を誤らぬ代りに臆病である、斷すべき機會を失つて仕舞うと云ふやうなことがある、さう云ふ風に如何なる人でも、總ての徳を自分に皆集めて居るものはない、其れ故其中から宜所丈けを拾つて、それを利用すると云ふやうにしなければならぬ。

それであるに依て君子は人を責むること寛にして己れを責むること嚴

一八〇
 自分の缺點は成るべくないやうに、人の缺點は成るべく之れを忘れる、さうして長所だけを見て行けば尊敬の念は誰しも成立つて行くので、論語にも久しうして後に之を敬すと云ふことがある、是は注意深い人だと云つて交際つて居ても、其中に注意深い人は臆病に見えて来る、大膽な人は無鐵砲に見えるると云ふやうになつて、段々交際が破れて仕舞ひ、そして久しき交際を続け兼ねるものである、所が久しうして後に之を敬すであるから、永久に重きを置いて、人の長所を見て、其長所を利用して交

際して行けば、永久の交際は破れないのである。
 諸君の中に今日必らず朋友がありませうが其交際が、長く續くと續かぬは、それを尊敬するの念が厚きや否やと云ふにある、即ち諸君が相互に長所を見ることが忘れて、短所を發き合つと云ふ弊に陥ると、交際は斷絶して仕舞ふ。それが爲めに社會に於て受ける損害は非常なものである、友達同志であれば何に就けても便利なきことがあるのに、友達を失つた爲めに非常な不利益を受けることになつて来る、だから諸君が學校

に於て結んだ交際を、永久に續けて行くには、矢張此尊敬の念を以て長所を利用して行くことが必要である。又會社に出た時でも、同僚に於て如何なる缺點があつても、其缺點を見ないで、自分は自分の仕事だけして居りさへすればそれで宜いのであるから、決して人の缺點などを見るに及ばない、假令天保時代の人でも、重役になるには、なるだけの長所があるから重役になつて居るに違ひない、全く長所のない者はそんな所に長く居られる譯のものではない、經驗に富んで居るとか、或は何か特

色の技藝に長じて居るとか、必らず何か長所がある、其長所を見て其重役を尊敬して、其命令を聞いて、ドシ／＼進んで行くことであれば、必ず出世することは疑ひない、それで私が諸君に向つて第二に希望することは、人に交はつて其人を尊敬する、其尊敬するに就ては長所を見て行かねばならぬといふことである。

それから第三に諸君に希望するのは自ら敬すると云ふことである、人を敬したばかりで、自分を侮つてはいかぬ、自分はごうでも構はない、